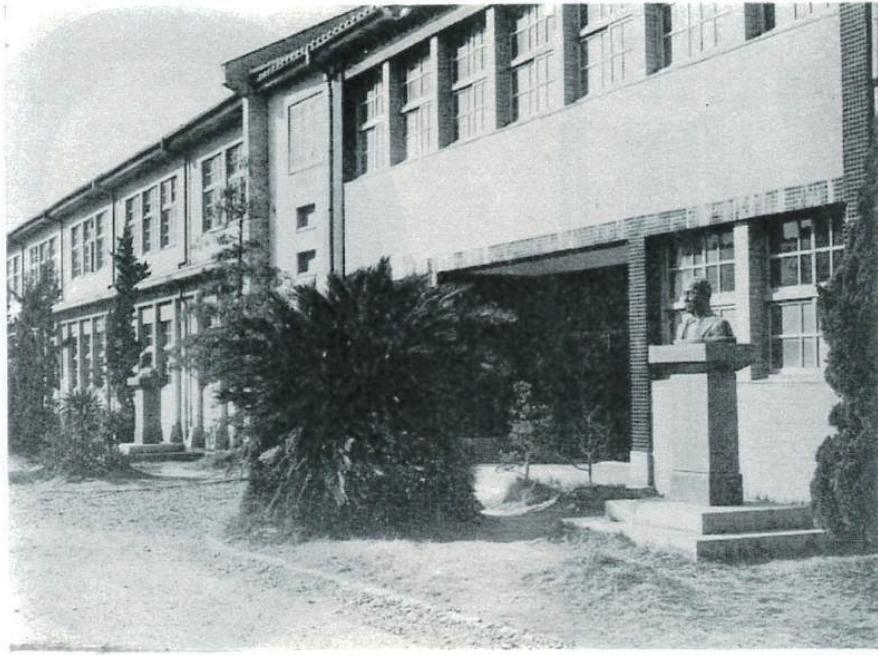


南校五十年



本校玄関



本校鳥瞰図



竹内 綱先生

創 立 者

竹内明太郎先生

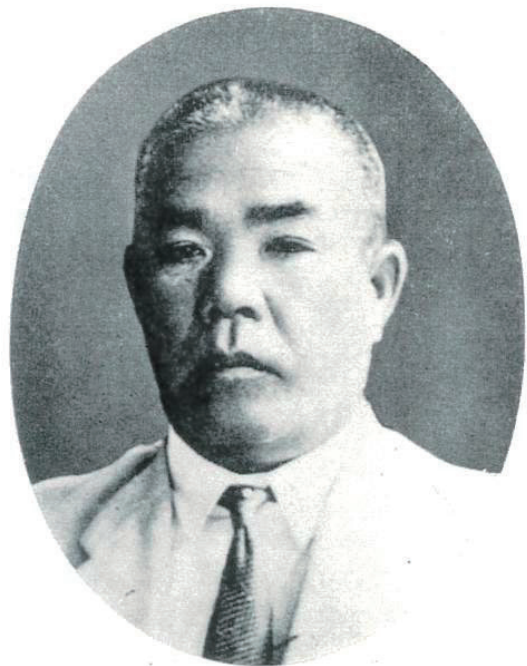




初代校長 吉崎七次郎先生



三代校長 森本長太郎先生



二代校長 松本政良先生



五代校長 小松生幹先生



四代, 七代校長 森岡真篤先生



六代, 現校長 戸梶徳喜先生



開校式当日記念写真

前列左より三人目竹内綱先生、右杉山知事
第二列右端吉崎校長

●工業校 開校式

竹内氏の創立は、日本最初の工業学校として、その歴史は長い。前回は、その創立の経緯を記した。今次の開校式は、その創立の歴史を振り返ると同時に、新進の工業学校として、その発展を期すものである。今次の開校式は、その創立の歴史を振り返ると同時に、新進の工業学校として、その発展を期すものである。今次の開校式は、その創立の歴史を振り返ると同時に、新進の工業学校として、その発展を期すものである。

●竹内綱氏の演説

本校が創立されて以來、その歴史は長い。今次の開校式は、その創立の歴史を振り返ると同時に、新進の工業学校として、その発展を期すものである。今次の開校式は、その創立の歴史を振り返ると同時に、新進の工業学校として、その発展を期すものである。

明治45年 5月5日付高知新聞記事



第一回卒業生（大六年三月）



私立高知工業学校舎一部

開校当時の校舎の一部



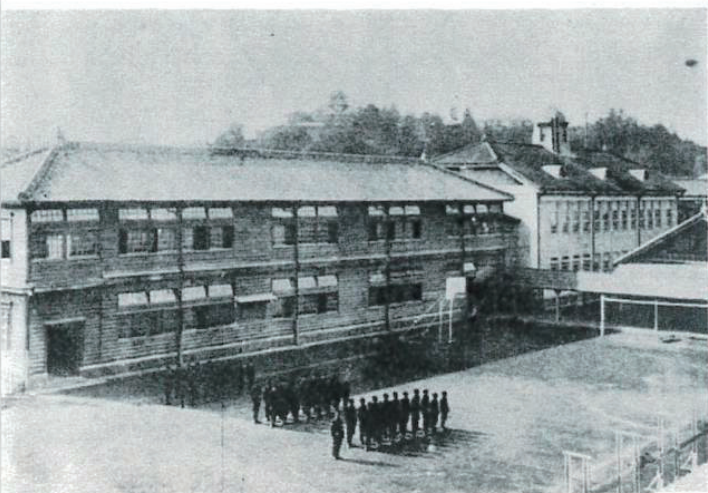
図書館の内部



吉崎記念図書館



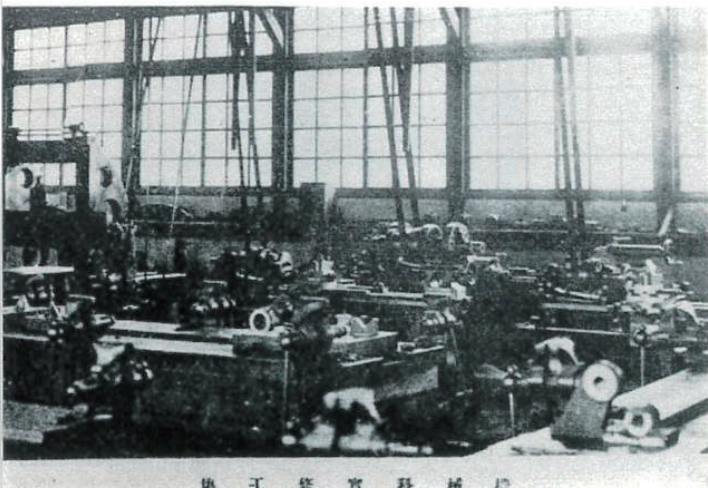
北与力町時代の正門と講堂



北与力町時代の校舎の一部と講堂

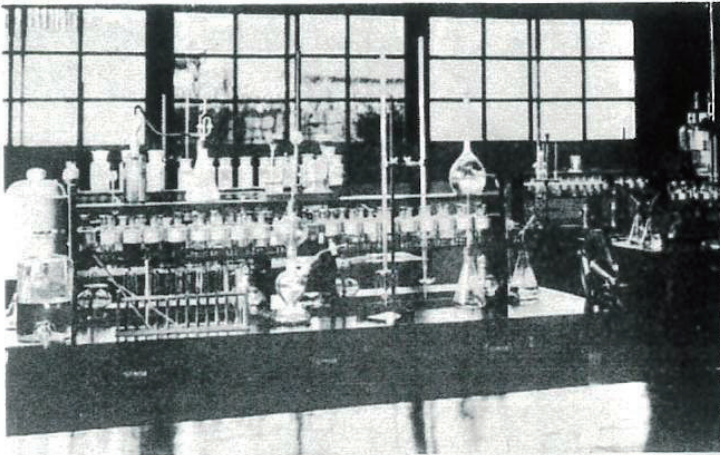


吉崎初代校長の送別式（昭八年）

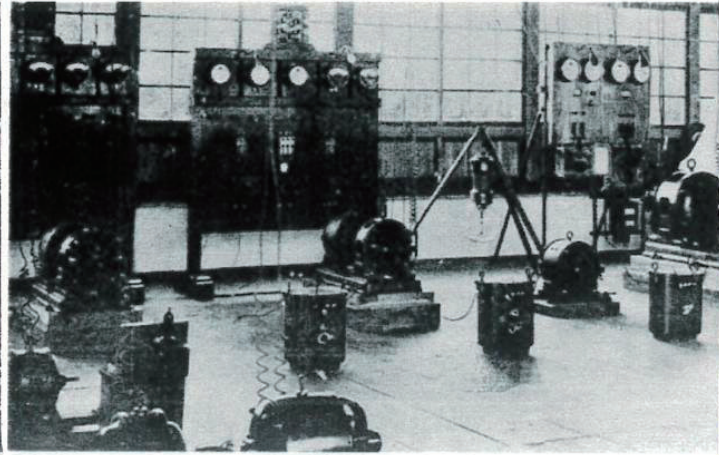


機工修實科機校

開校当時機械科実習場

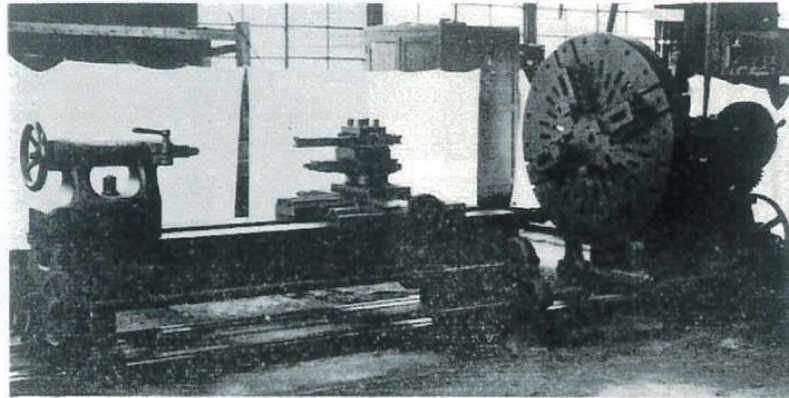


場工習實析分科學化用應

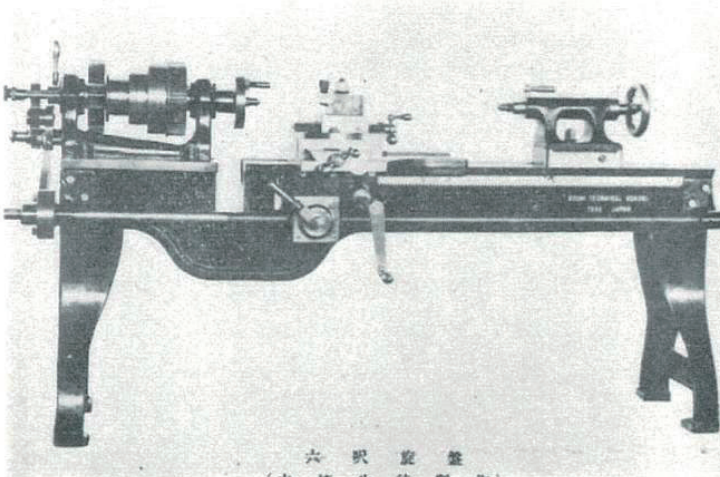


開校当時の実習場・電気科と応用化学科

開校当時の本校製品の一部

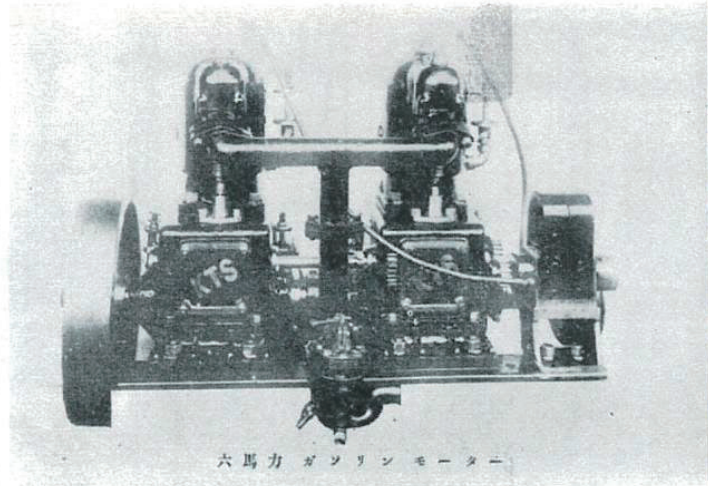


(14 呎 旋 盤)



六 呎 旋 盤
(本 校 生 産 製 品)

(6 呎 旋 盤)

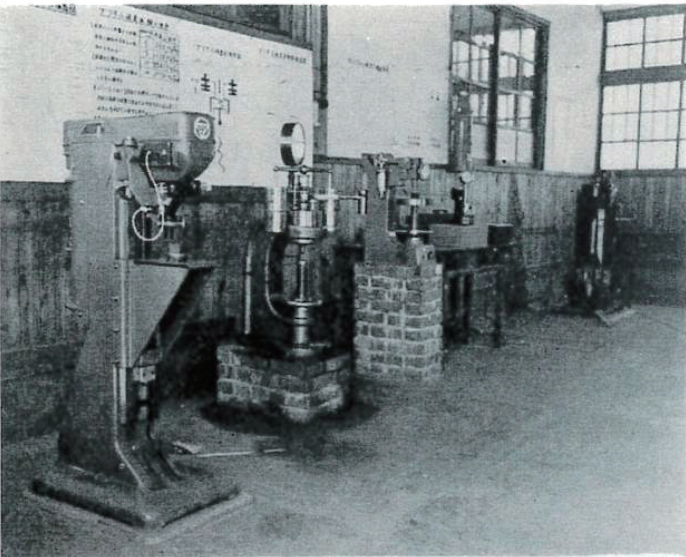


六 馬 力 ガ ソ リ ン モ ー タ ー

(6 馬 力 ガ ソ リ ン 機 関)



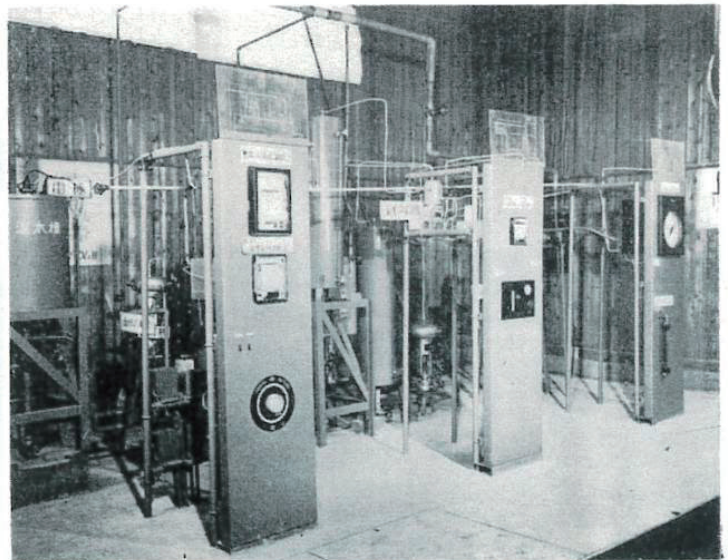
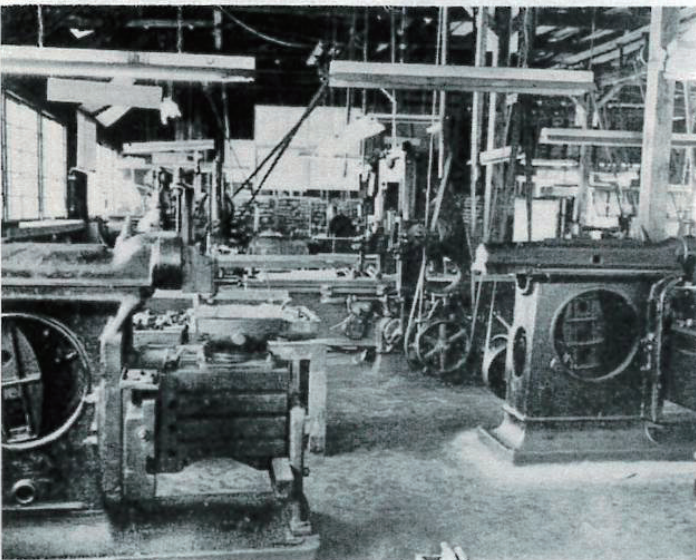
現校地への移転 (地鎮祭)



現在の実習実験設備の一部

左上機械科材料試験室

左下同上機械工場

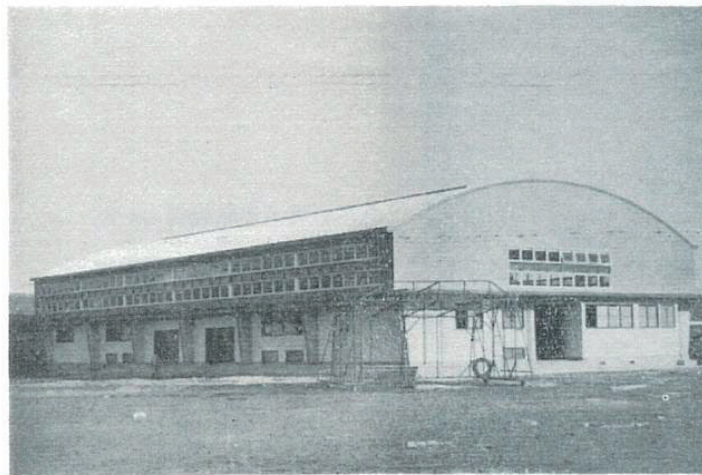


電気科 自動制御実験室

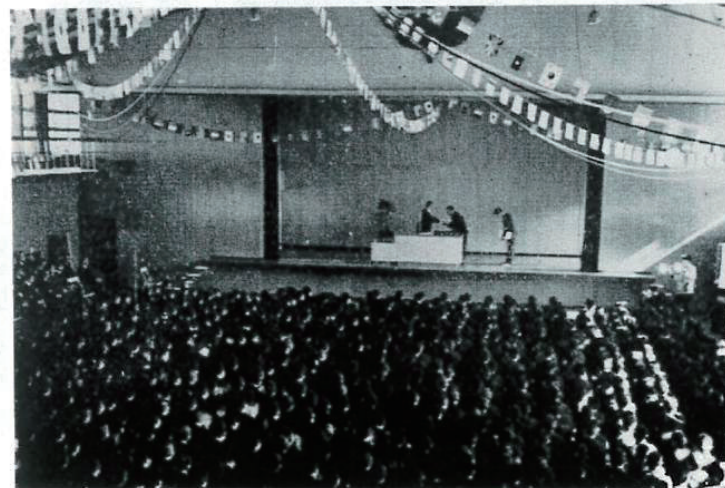
工 芸 科 実 習 場



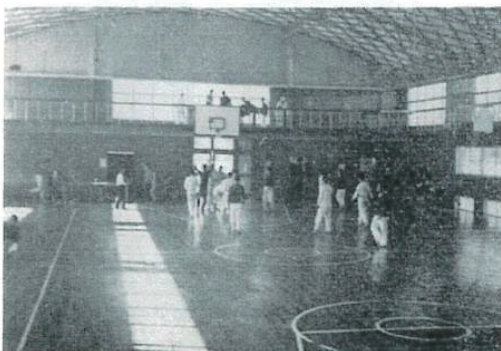
体 育 館 兼 講 堂 全 景

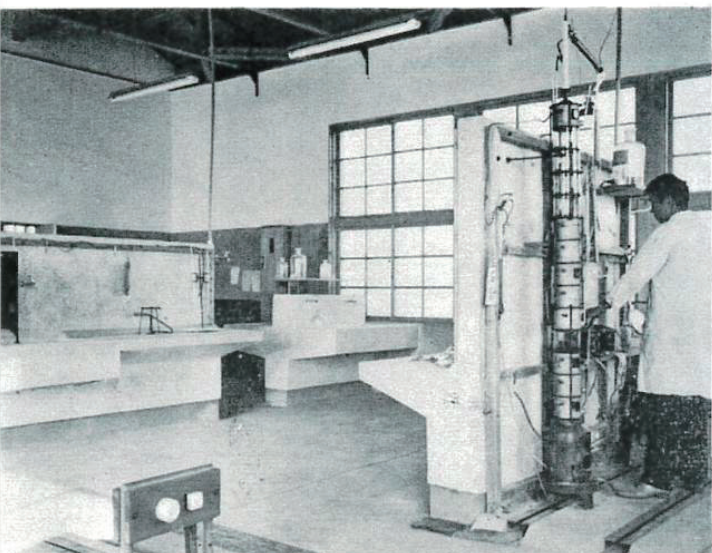


同 上 落 成 式 (昭 和 3 6 年 1 月 2 8 日)

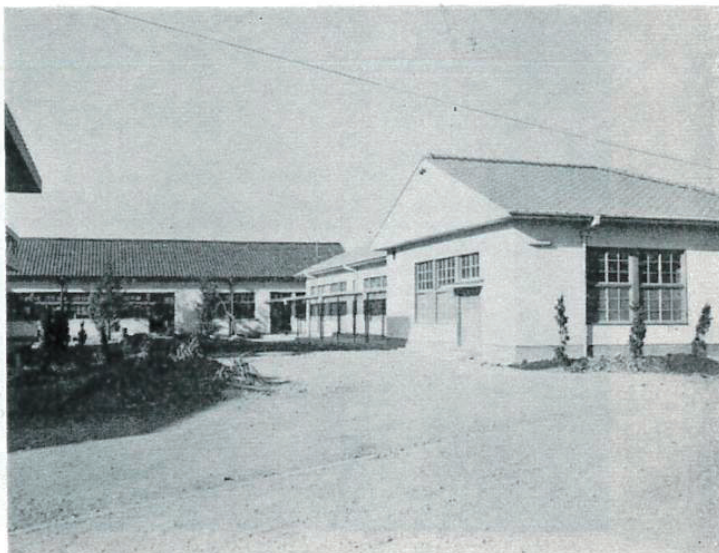


同 上 内 部

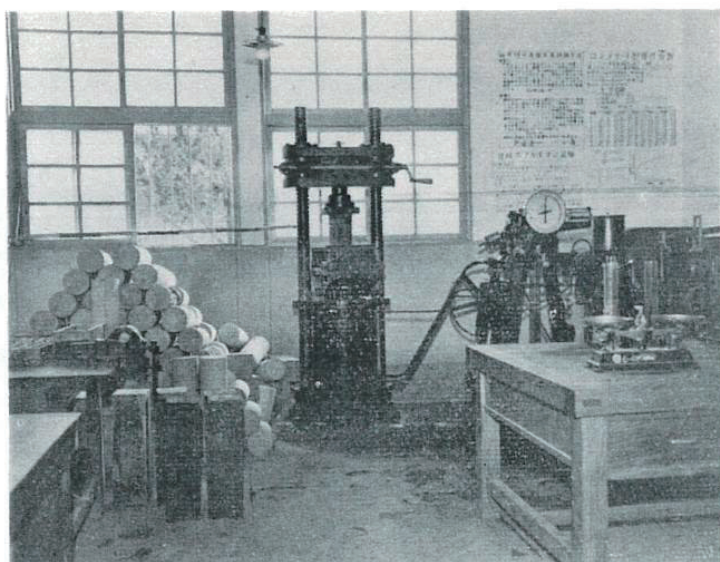




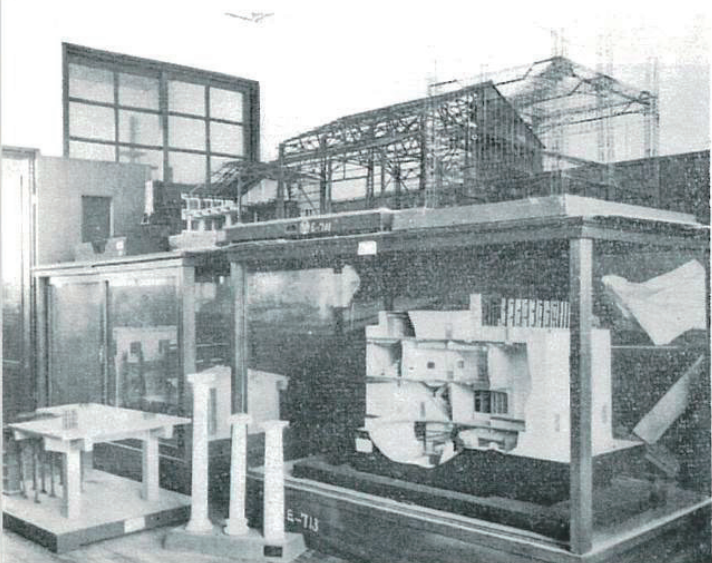
工業化学実習設備（精溜装置）



工業化学科実習場の外観



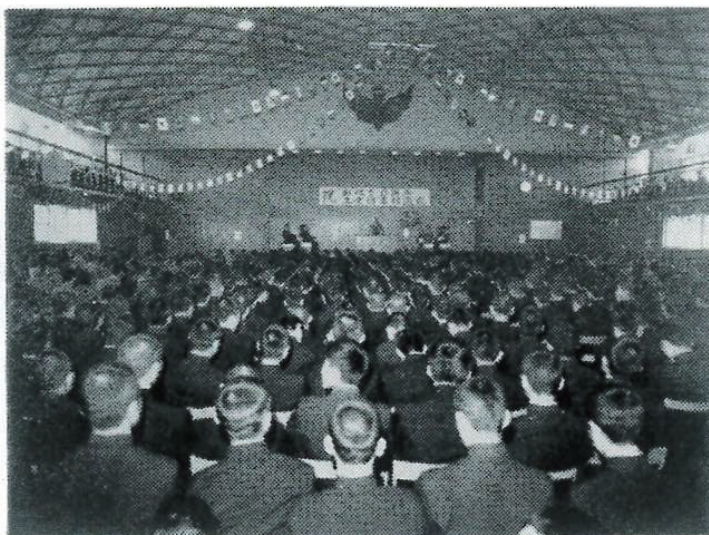
土木科コンクリート強度試験



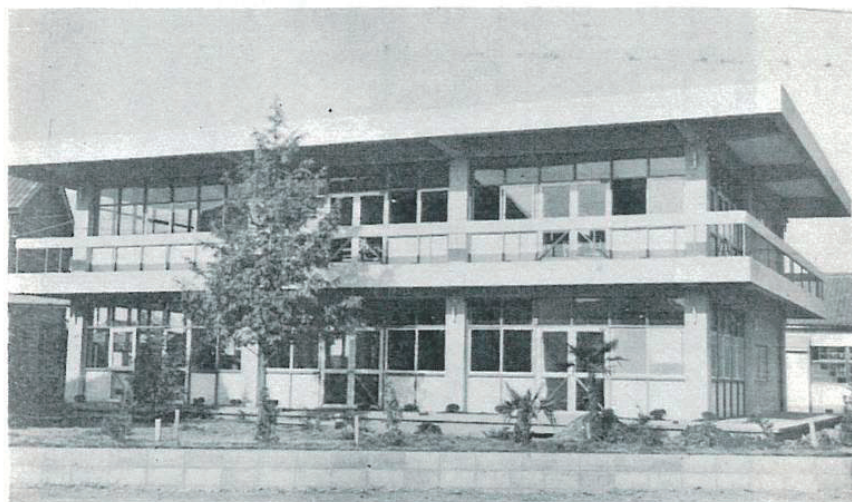
建築科実習機材



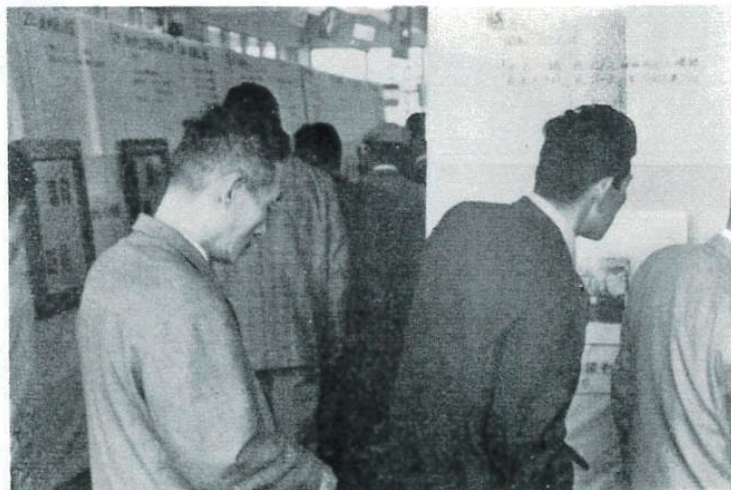
建築科実習場の外観



開校50周年記念式典
(昭和37年5月4日)



工業図書館(同窓会館)
(昭和37.3.15.竣工)



開校50年史展(昭和37年5月4日)

目次

回顧追想録

校旗、校歌			
本校全景			
創設者とその胸像			
歴代校長			
記念写真			
序文	1		
本校設立の主旨			
明治四十五年五月四日開校式における演述	2	竹内綱	
開校式における祝詞	4	工学博士 白石直治	
本校沿革年表	6		
本校の現況	9		
全景図	12		
グラフ	13		
同窓会組織	18		
卒業生一覽表	18		
開校五十周年記念行事並に工業図書館(同窓会館)落成式	21		
式辞、挨拶、祝辞、謝辞	22		
五十周年記念歌	26		
工業図書館(同窓会館)建設資金の募経過並びに会計報告	27		
(一) 座談会 (1)、(2)	33		
(二) 高知県立高知工業高校在職中の思い出	42	森本長太郎	
(三) わかば会のこと	43	小松生幹	
(四) 母校の移転改築当時を顧みて	45	橋本龜一郎	
(五) やじ馬閑談	47	森光喜	
(六) 五十年の思い出	50	吉村重隆	
(七) 図書館(同窓会館)の完成に当り	51	小川楠水	
(八) 楽しかりし昔	52	今村幸喜	
(九) 中内知章先生の思い出	53	沢本豊	
(十) 高知工業高校定時制の歩みを顧みて	55	築取勉	
(十一) 恩師、同窓を想う	58	川久保友一	
(十二) 放屁談義	59	渡辺栄	
(十三) 思い出の記	60	高村美茂	
(十四) 想い浮ぶままに	61	並川安幸	
(十五) 母校今昔物語	63	小川楠水	
(十六) 母校の五十周年に寄せて	65	島中福泉	
(十七) 創立五十周年を迎えて	66	大倉要	
(十八) 想い出	67	加藤秀季	
(十九) 私立高知工業の卒業生	68	北村正	

(二) 犬はやっぱりワンワンと吠えた	森田久雄	69
(三) 記念誌発行に寄せて	浜田勝喜	70
(三) 陸上競技部の創生記	坂本龍雄	71
(三) 平凡な思い出と五門会	村田寅次郎	72
(四) 同窓会大阪支部長として	安岡一郎	72
(五) 秘 密	宮地耕作	73
(六) 吉崎初代校長を偲んで	尾崎晴光	74
(七) きたえる	池上実	74
(六) 母校と、旧師、旧友の思い出	山本虎実	75
(九) 母校あればこそ	井上正一	77
(十) 思い出の断片	今原旭	78
(三) 思いつくままに	川田義一	79
(三) 思 い 出	富永武夫	80
(三) 落第坊主と英語	みやけとしお	80
(四) 母校開校五十年に憶う	上久保浩	81
(五) あ の 頃	大島正賢	82
(六) あれから二十年	国沢秀雄	83
(七) 戦争の思い出	大坪立男	84
(六) 工業の奇型児	長尾英三郎	84
(九) 思 い 出	北村邦雄	85
(四) 思い出すまま	大西明治	86

(四) 関東震災の思い出	大西忠顕	87
各課程の生い立ちと今日		
(一) 機械科五十年のあゆみ	塩田一郎	89
(二) 電気科の今と昔	奥田稔	90
(三) 今昔、工業化学科	田所胤雄	90
(四) 土木科とその昔	村山保	91
(五) 建築科の沿革	坂本聰平	92
(六) 工芸課程	渡辺満稔	92
懐しの応援歌	中山卯月	93
編集後記		

序

昭和三十七年五月三日で、本校はその前身私立高知工業学校として発足してから、満五十年になりました。沿革概要で周知のように私立高知工業学校は、故竹内綱、明太郎両先生がその高邁な卓見と郷土子弟愛の発露として設立されたものであり、吉崎七次郎先生が初代校長として両先生の御抱負を着実に実践され、本校今日の隆盛の基礎を開かれたのであります。又その間竹内両先生は、立派な学校を作るためには又立派な生徒を作るためには、先生が優秀でなければならぬという御考えであつたと推察しますが、それぞれ特徴のある優れた先生方が在職され、中には私費で海外視察に派遣されたこともあります。私の在学中御教えを受けた先生方の御声咳は今でもほうふつとして眼前に浮びますが、中にこの海外視察を終られた先生もおられました。私共同期生は、これらの先生方の高く広い識見に常に敬愛の念をもって御教えを受けたことを今でもよく記憶しています。

爾来本校は発展に発展を重ね、発祥の地北与力町から現在地に移転するとともに、校地も約三千坪から約一万坪に拡張され、学科も機械科、電気科、応用化学科の三科から現在の全日制六科、定時制五科、生徒数約千七百名に発展したのであります。これらの発展の裏には、私共の伺い知ることの出来ない苦心經營があつたことと推察されますが、吉崎七次郎先生御退職後松本政良先生、森本長太郎先生、森岡貞篤先生、小松生幹先生がそれぞれ校長として当時の教職員、同窓会々員の方と協力一致今日を基かれ、卒業生も約一人を数える現在の発展をみたのであります。

私は教職員の方或は同窓会、PTAの皆様方の御協力のもとに、過去をふりかえつてその良きをとり、新しきを求めてその上に加え、本校今後の発展を期し、ここに学ぶものの幸せを飽くまで高め将来我国工業界の優秀な中堅技術者たらしむべく、万善の努力を傾ける考えであります。本校を知っておられる方々は勿論、本校の内容等充分御存知ない方々も、何卒本校発足の意義と本校存在の意義を充分に御理解下さいまして、各種の御援助を賜りたく御願いたします。五十周年記念誌の序といたします。

昭和三十八年一月十四日

高知県立高知工業高等学校長

戸 梶 徳 喜

本校設立の主旨

明治四十五年五月四日開校式に於ける演述

校主 竹内 綱

私が本校を創立するに至りました其來歴及私及悻明太郎が、理想とする所を御話致しまして、御清聴を煩はしたいと存じます。

私は本県幡多郡宿毛村の出生で有りまして、高知藩の家老伊賀主馬の家臣であります。御承知の通り宿毛村は高知市を去る四十里余にして、其交通の不便は日本中殆んど稀なる僻地で、戸数は伊賀家の家臣商家共僅に二百戸に足らぬ片田舎であります。

然るに伊賀家は祖先以来代々文武の学芸を奨励致し来りました故に、私の十代前の当主兄弟三人杯も当時日本南学の宗と称せらる、谷泰山、山崎闇齋等に從ひ、京都又は当時の江戸に往來し朱子学を修行致しました。

此の如き一郷の風習でありました故に、私の旧主伊賀主馬の代に至り、田舎には比較的稀なる学校を設けて、家臣の子弟を教育し来りました事であり、此が為めに明治維新に際し、伊賀家の家臣百名に足らぬ中より、若干の有志の士を出しまして、多少国事に尽す所ありました次第でありました。

私は斯様な感想より、先年来悻明太郎と相談しまして、小規模なりとも中学校様の学校を設け、郷国子弟教育の一助となさん事を思ひ立ちましたに始まり、其計画を明太郎に一任しまして、漸く今日本校の創立を見るに至りました次第であります。

さて、私父子の理想に於きまして、我国は古來農業国で、農を以て立国の基として来たといふことは、今更申す迄もない事ではありますが、今日では人口の繁殖と、万国交通の発達との為、単に農業本位では一國の經濟を立てる訳には參らなくなつて寧ろ農業を以て国内を養ひ工業を以て国外に對抗しなければならぬといふ、時勢になつて来たのであります。然るに、又我日本は政治及軍事に於ては、彼の二大戦役の結果、已に壹等国たる地位を勝ち得たのであります。經濟的方面即ち富の程度は、未だ此の地位に伴ふ迄には至

りて居らない。若し我国が戦捷に依りて得たるこの地位を、永遠に持続して行かうといふには、是非共に伴ふ丈けの富力を増進せなくてはならぬ、而して其富力を造るのは、工業の發達を因るより外に道はないのであります。

諸君、工業の發達は、此の如く我国目下の急務であります。さて、工業の發達を因ると致しますと種々なる道から及ばさなければならぬのであります。就中工業教育を盛にして、優良なる技術者を養成するが、一番必要となつて来るのである。欧米諸國の工業先進國が、今日の如くに工業を發達せしめたのは、一に工業の基礎たる科學の進歩を因り、技術者の多数を輩出せしめたる結果に外ならぬのであります。

之を要するに、工業を發達致します根本は技術者である。故に工業を發達せしむるには、先づ技術者の養成を因らなくてはならぬといふことになるのである。然るに技術者の養成は、決して容易な業ではない。

學問にはどの道容易なものはないけれども、工業の學問は之を修むるに、只理論ばかりではいかぬので、之を習ふに複雑なる実験實習を以てしなければならぬからであります。

私は元來工業教育にかけては全く内外漢であります。されば工業の學問に就ては、殆んど何等の智識を持たぬ者でありますけれども、私は明太郎と共に多年の間、工業の實際に関係致して居りましたが為めに、今日の工学を修めた若い人たちに、沢山に御目にかかる機会を得たのであります。其経験の結果として技術者といふものは、次に申す様な素養を有つものでなければならぬと考へたのであります。

一、身体の強壯なること。

二、技術上の學問の素養あること。

三、學問の素養と相待つて、之に副ふ丈けの實地上の手腕あること。

四、右の三つの能力を發揮するに足る人格を備ふること。

優良なる技術者としては斯様な四つの素養が必要であることを感じました。其で工業教育の理想もかふいふ人物を作ることではなければならぬと考へたのであります。

さて、世上を見渡しますと工業に関する學校が中々に沢山に出来て居る。

之に従ひて多くの卒業生も出来て居るが、其等の学校が果して私の考へた様な理想を以てやって居るかどうか、其の点は固より私の与り知らぬ所である。只私が多数工業学校出の若い人達に就て見た上から遠慮なく申せば、学問が不足の爲めに大して困ることは少ないが、実地の手腕の乏しい爲めに遺憾と思はるることが屢々あったのである。

其故私は多くの工業学校の教育法が学問に偏して実地の手腕を軽んずる傾向があるのになかろふかと思つたことである。之は勿論私の井蛙の見であるかも知れぬ。兎に角、私は右様な考を起したが爲に、若しも出来得るならば自分の考へた様な教育をやつて見たい、ならば、老後の思ひ出に、工業志望の少年の爲めに、一臂の力を添へて見たいと、かう思つたのである。之が私の本校を設立するに至つた理想であるのであります。

さりながら教育の業は極めて慎重の考慮を要するものである。中々に私などの如き浅慮短見の者が思ひ立つたからとて、直ぐに始められる訳のものではない。其でありますから、私は私としての教育欲を起してから私の平尊敬する東京高等工業学校校長の手島精一君に明太郎を以て屢々御相談をしたのである。

御承知の通り、同君は我国の工業教育家の泰斗といつて然るべき方で、斯道には誠に御熱心で又御経験の深い方で居られる。所で、私の懐抱して居りました意見は、偶然にも手島君の真摯なる御賛成を得たのであつて、私に取りては中心無限の快感を覚えた次第であります。

こゝに至りて私は勢ひ私の微力を顧みて居ることが出来なくなりまして、茲に自揃らず本校の開校を實行することに致したのであります。私が本校を設立し且つ之を開校するに至りました来歴大要申しました訳でありますから私が本校の教育の方針として、本校の職員諸君に御願いたします所、並に生徒諸子に望む所のものは、之に依りて略ぼ御諒察を願へるかと思ふのであります。

次に、私は本校を当地に設立するに至つた事由に就て、尚一言申上て置きたいと申すのは外でもありません。御承知の通り、私は土佐の出身で、土佐を郷里と致して居るものであります。故に私はこの土地が弥々發達して、土

佐の子弟が続々立身出世をすることを希ふ精神に於ては、敢て人後に落ちないと思ふものであります。それで、熟々我が郷里のことに就いて考へて見ますと、地理上の位置は誠に交通不便の僻地でありますけれども、幸なことには、古来天下の人物といはるゝ人達が、沢山に土佐から出て居る。彼の明治維新の際の如きは、土佐の人物輩出の最も華やかであつた時代かと思はれます様な訳で、所謂、先達の士之が先を爲し、後進の者之が後に継ぐといふ場合に参つて来たのであります。諸君御國自慢は他国ですることかも知れません。現代に於ても土佐の人は、社会のあらゆる方面で活動を致して居ります。この点は今日こゝに御参列の県当局を始め、土佐在住の諸君の御骨折の結果でありますので、私共の深く感謝する所であります。

然るに私が前に申し述べました通り、今日の我國の勢は工業立国で行かねばならぬ。此の時に際し我高知県にまだ工業教育の機関が出来て居らぬのはどうしても物足りない様に思はれるのであります。

勿論国家には国家として、相当の工業教育機関があつて、高知県が独りに与つからぬ訳ではありませんが元来工業の技術者には各種の階級がありまして、軍隊で申さうならば、士官もあれば下士官もあり、兵卒もあるといふことになつて居る。而して我が郷里の子弟は、各自の境遇と志望とに従ひて工業界に於ける士官ともなり、下士官ともなり、又は兵卒ともならなければならぬ。そこで士官以上は国家が之を養成するにした所が、士官以下の者はどうしても地方で養成をしなくてはならぬのである。

茲に於て、本県に於て彼の中学校や師範学校に並んで行く丈の、工業の学校がどうしてもなければならぬといふ結論に到着するのであります。

尤も理屈は私の發明でも何でもありません。県当局を始め、県民各位のかねがね考へて居られたことであるが、丁度私が前に申した様な、工業教育の欲念を起した所の昨今に至りて、其必要が目前に迫つて来たのであります。諸君、私の工業教育の欲望は必ずしも高知県に限りませんでしたものではあります。なんだが、然し若しも私の計画を高知で実行致すとすれば、恰も郷国の子弟の爲に幾分の便宜となることでもあります。是れ私が本校を当地に開設した理由であります。

私が学校の設立を思ひ立ちました理想と工業学校を当地に設置致しました理由は、右申す通りであります幸に諸賢の庇蔭に依り、茲に開校式を挙行するに至りましたなれども、私の微力であるが為、学校規模は甚狭小であるのみならず、創立匆々の事として、校舎を始め総ての設備が、不完全でありまして、慚愧に堪へぬ次第であります。然れども漸を以て私の力の及ぶ限りを尽す積でありますれば、本校の職員諸君及生徒諸子に於きましても、深甚の御忍耐を以て御勉勵あらんことを希望するのであります。又来賓諸君に対しては此点に関し偏に御同情を以て御賛同下さるゝ様特に御願する次第であります。

私は此の開校式に臨みまして、私共父子が従来の感想を陳述しまして御清聴を煩はしました。来賓諸君、願くは私父子の微衷を諒とせられ、爾今将来本校の教育に深厚なる御高配と御援助を賜はり、以て本校の創立の主旨を貫徹し、相応の成績を見るに至らんことを、懇願する次第であります。

祝詞

開校式に於ける祝詞

工学博士 白石直治

諺に曰く羅馬は一日に築き得可らずと。

羅馬の如き文明の大都會の世の中へ出現せんとするは、一朝一夕の事業にあらず、永年間の富の蓄積人智の開発に依て漸次之を生じたるなり。

我国維新以来、頻りに欧米文明の輸入を勉めたる為め、百般の事物長足の進歩を為したるに相違なきも、彼等が数百年間に積みたる富を以て築きたる事業と我国が四五十年間為したる仕事とは其の差異の大なること到底比較し得べきにあらざるなり。気盛にして力足らず、是れ我國民の弥々益々奮励すべきの状態に在るなり。而して富を来たすの基は何ぞ、智識是なり、即ち教育に依らざるべからず。又諺に曰く「ニュートン」はアフリカを中心に生ぜ

ずと、蓋し富強の原因たるべき大發明者「ニュートン」の如き大学者は、「アフリカ」の如き無智蒙昧なる野蛮人の社会より、突然現出すべきものにあらずして、必ずや多年間秩序ある進歩をなし、國民の智識一般に向上發達したる社会にして初めて斯の如き大学者の出現し得るを意味す。是れ争ふ可らざる進化論の原則なり、以是我国に於ても國民教育を盛ならしむる事の最も必要なることは言を待たざる所なり。

維新以来我国の物質的進歩に就て觀るに、鉄道就業航海業等の如き生産補助の機關は比較的發達し、從て是等の施設に投じたる資本も多額に上ると雖ども、殖産興業の根本事業たる直接の生産業に至ては、未だ其幼稚なるを免れず、故に大に是等生産業の發達を囿らざる可らず。是れを囿らんとせば是等の事業に関する智識、即ち教育の普及を囿らざる可らず。予嘗て欧米に在る際、欧米の教育方針を見るに、各種の技術的教育に大に力を尽し、又学生も好んで是等専門の學問を研究するの狀態なりき、欧米諸國事業の發達偶然にあらずと云ふべし。然るに我国に於ては比較的技術的専門學校の設置少く且学生も文學法律等の研究を好む者多く、技術的の學問を研究するもの余り多からざるの有様なり。

今茲に我県下に於て本校の設立を見るに至る、是れ実に前述の缺陷を補ふの一助として、國家の為に裨益する所鮮少なからざるを思ひ、慶賀の情に堪えざるなり。

予嘗て書生生活を為せしこと久し従つて学生の苦心困難快樂等、凡ての事情に通曉するが故に、満腔の同情を學生に寄せ、之に向つて一二助言を試みんと欲する者なり。

一、労働を厭ひ賤む勿れ。

學問の見地よりせば、天地間の万象に實賤の別なし。政治、法律、經濟、技芸、美術、凡て百般の専門的學問は孰れも其研究に高等の智識俊才を要するものにして、従つて商工業其他各種の職業に實賤の別なし。之に高下の區別を附するが如き感情は漢學の垂流なり。即ち支那人は富有にして尙かざるを貴しとし、已れの瓜の長さを自慢す。欧米人は假令富有のものとなし雖も反對に已の労働を誇言し、又一般に勞働を敬重す。東西風俗の異なる亦以て其盛

衰の別る、所以を示すなり。

二、冷静にして感情に駆らるゝ勿れ。

少年は物に感激し易し、然れども脳力の鍛錬は客気に逸りては出来ざる事なり、感情に依て行動する時は万事正衡を失し、破懐的に陥り終生を誤ることあり、故に勉めて感情を排し、理性に依り、冷然として教理的に研究すべし。

三、自信を強くすべし、換言すれば自己の専門に対し大なる敬意を持すべし

世人或は諸子を指して、技術の末技を学ぶ者と云ふものあらん、如斯は亦漢学亜流の日本のみにして聞き得る言にして、文明の學術界にては解し得ざる陋説なり。如斯思想の公衆間に存在する限りは、其社会は純然たる東洋の一國たるを得るも、文明國より見れば半開の田舎社会たるを脱かれず。

学生諸子は既に意を決して本校に入る以上は確固たる抱負あつての事なれども、尚諸子の信念を固からしめんが為に一言せるなり。

四、衛生に注意し、精神を快活に持すべし。

諺に健康の身体に、健康の精神と云へり。

精神と身体とは、相待つて完全なるを得るものなり。過度に勉強して身体を害せば大器晩成の功を收むること能はざるなり。諸子の運動の時間、遊戯の時間は学問を忘却して愉快に遊ぶべし。

余が若年の時数年間西洋に書生々活を為せり、当時我國の学校に於ける如く、蒼色を帯びたる不健康体を見たることなし。又當時の我國の学生よりは比較的修学の時間少かりしなり、此点に就ては予は諸子の為に教員先生に乞ふ所あり左の如し。

過多の課業を以て、生徒の神経衰弱を來たすこと無からんことを期すべきなりと。

五、世界的の新智識に接触すべし。

学問は世界的なり、学問に従事するものは學術的思想即ち世界的思想の進歩に通ずることを勉むべし。諸子は諸子の専門とする所の学問の研究に奮励すると同時に、進て社会に対し先覚者たるべきことを忘る可らず、即ち世界的新智識に接触すべし。茲に於て諸子は進て一の外国語に通ずることを心

掛らるべきなり。維新以来既に幾十年の星霜を経たれども、稍もすれば世界文明國に不通なる東亜特別の固陋説流行して思想界の退歩するを見ることあり、一々茲に説明せざるも諸子は常に新智識に接触して、其思想を文明的ならしめん事を希望するものなり。聊か卑見を陳じて祝詞に代ふ。

同 一七・四・八	校地狹隘の爲め高知市北与力町より現在の高知市 棧橋通り二丁目に移転敷地九千七百坪（登記面積 ）内二百二十坪私設道路、建築敷地二千四百三十 七坪（延三千五十三坪）運動場三千七百八十坪と なる	同 二四・九・一	第二棟西半部延二百七十坪の校舎落成（普通教室 七、製図室一） 県下高等学校再編成により県立高知工業高等学校 と高知市立工芸高等学校を統合し高知県立高知工 業高等学校となし全日制の設置課程は機械、電気工 業化学、土木、建築、木材工芸の六科となり工芸 高等学校職員生徒は工業高等学校へ移って授業を 行う、但し工芸実習工場は当分元の工場設備を使 用（高知市大原町一八〇、二棟百二十坪及び七十 八坪）生徒数千百名となる、尚工芸高等学校一カ 年制の建築別科生十三名も收容
同 二〇・七・四	空襲の爲全校舎、工場、図書館、道場等を全焼	同 二五・三・三一	第一棟本館二階建西半部（十教室、附属便所、廊 下二百五十一坪）竣工
同 九・一	本校事務所を高知県工業試験場に置き、分散教育 の事務を執る	同 五・一五	機械実習工場（百三十六坪）大修理竣工、之は元 県造船会社所有建物を昭和廿四年度県有に移管し た杉皮茸バラック建築を瓦葺とし更に補強改修 す
同 一〇・一	授業を工業試験場、市立商業学校、海南中学校、 長岡組合立小学校、県造船株式会社葛島工場、高 須小学校、高岡高等小学校、須崎小学校等を借り て開始	同 七・一四	工業化学実験室（百三十九坪）竣工之は都市計画 に関連し計画線外にあるバラック建四教室（百六 十四坪）移転改築す
同 二一・三・三一	第二本科を廃止、生徒定員一千名となる	同 九・九	第一棟本館二階建中央以東部延二九〇坪（玄関、 事務室、校長室、応接室、職員室、宿直室以上一 階一四五坪、普通教室四、合併教室（以上二階建 四十五坪）衛生室七坪、小使室一七・五坪、便所 二坪、物置四坪、廊下三六坪（中央二四坪、東端 一二坪）合計延三五六・五坪、起工式竹村建設合 資会社四国営業所々々長代理岡部芳明市知寄町一丁 目三十二番地、現場監督鈴木一幸、工事請負
同 九・一〇	飯校舎五棟千四百四十坪（内四棟千四坪は海軍航空 隊仁井田兵舎を譲り受けて移築、一棟百三十坪は 県造船の工場を移築し機械工場）落成に付全校生 徒を收容して授業開始	同 一二・八	土木建築につき定時制（昼間授業四力年）の課程 を置く
同 二二・四・一	新制高等学校令により高知県立高知工業高等学校 が設置され工業学校四、五年制は同高等学校に編 入され二、三年生は併設中学校生徒となる（高等 学校設置課程は機械、電気、工業化学、土木、建 築）		
同 二二・六・一	土木建築につき定時制（昼間授業四力年）の課程 を置く		
同 二四・一・八	第二棟二階建東半部延二百九十坪の校舎落成（普 通教室四、電気実験室等）		
同 三・三一	併設中学校廃止定時制に機械、電気、工業化学の 課程を増設夜間授業に切り替う		
同 三・三一	森本長太郎氏退任、森岡貞篤氏四代目校長に就任		

同 二六・六・八 右の工事竣工検査合格六月十日より使用す
 同 二七・四・一一 第七棟木材工芸科木材試験室、木材工作室塗装室
 倉庫等（一二〇坪）清水建設株式会社にて完成、

第八棟機械科材料試験室、製図教室、精密測定室
 機械科職員室等（一二三坪）清水建設株式会社に
 て完成

同 二八・三・三一 第九棟階下木材工芸製図室、芸能室、理科室、準
 備室、階上土木製図室、建築職員室、準備室、建

築製図室等（延三八〇坪）完成

同 二九・三・三一 第四棟土木科水理実験室、土木実習室、土木科取
 員室測量器室、準備室等（一〇〇坪）完成

同 三二・三・二〇 鋳物工場、鉄骨平屋建日本瓦葺七〇坪完成

同 三四・二・二八 建築科、工芸科、機械科、木工場木造平屋建アル
 ミ瓦葺一三四・五坪完成

同 三四・二・二八 渡り廊下木造平屋建厚型スレート葺六坪完成

同 三五・三・二〇 給食場木造平屋建瓦葺一五・五坪完成

同 三五・三・三一 配電室コンクリートブロック造平屋建一二・五坪
 完成

同 三五・一一・一 屋内体育館兼講堂鉄骨造り一部RC造三三五坪完
 成

同 三七・三・一五 工業図書館（同窓会館）鉄筋コンクリート）二階
 建延一二〇坪完成

同 三七・三・三一 工業化学科実験工場、木造、平屋、九一、〇五坪
 渡廊下、同一五、四坪完成

四、敷地面積 九六四四坪 運動場三二〇〇坪

五、建物延 二九七三、一五坪

六、教室 普通教室二四、合併教室一、図書館一、特別教室七、実習工
 場六

七、明治四五・三・三一 私立高知工業学校

八、教 員

1、歴 代 校 長

大正 六・三・二三	第一回卒業式挙行
大正 九・三・二六	高知工業学校と名称変更
大正 一二・四・一	高知県立高知工業学校
昭和 二三・四・一	高知県立高知工業高等学校
明治四五・五・一	校長事務取扱 吉崎七次郎
大正 四・一〇・一	校 長 吉崎七次郎
昭和 八・五・三一	校 長 松本 政良
昭和 一四・四・二六	校長事務取扱 仙頭 隆
昭和 一四・五・二五	校長心得 森本長太郎
昭和 一五・二・二一	校 長 森本長太郎
昭和 二四・三・三一	校 長 森岡 貞篤
昭和 二七・四・一	校 長 小松 生幹
昭和 三二・四・一	校 長 戸梶 徳喜
昭和 三三・一〇・一	校長事務取扱 近森盛之助
昭和 三四・四・一	校 長 森岡 貞篤
昭和 三六・四・一	校 長 戸梶 徳喜

現況

- 一、所在地 高知市棧橋通り二丁目九十番地
- 二、校地 九、六四四坪(三一八二五、二平方メートル)
- 三、施設 延二、九七三坪(九八一〇、九平方メートル)

校舎内訳

校長室	職員室	理科室	一
講堂兼体育館	事務室	普通教室	二四
芸能室	小使室	工業図書館	一
応接室	保健室	宿直室	一
給食場	倉庫		一

各科の実習実験室

機械科	機械工場	仕上工場	一
木工工場	熔接工場	鋳物工場	一
鑄造工場	精密測定実験室	材料試験室	一
工具室	製図室	暗室	一
原動機実験室			一
自動車車庫			一

電気科

配電室	電源室	弱電実験室	一
強電実験室	高圧実験室	器具室	二
照明実験室	電気工作実習室	製図室	一

工業化学科

定性分析室	定量分析室	天秤室	二
薬品室	器具室	薬品倉庫	一
暗室	準備室	理論化学実験室	一
合成化学実験室	化学工学実験室		一

土木科

	化学工学実験室		一
--	---------	--	---

四、設置科および学級数

一、設置課程

機械科、電気科、工業化学、土木科、建築科、木材工芸科

二、学級数

学年	科別					合計
	機械	電気	工業化学	土木	建築	
一年	二	二	一	一	一	八
二年	二	二	一	一	一	八
三年	二	二	一	一	一	八
合計	六	六	三	三	三	二四

コンクリート及び土質実験室	一	製図室	一
水理実験室	一	準備室	一
建築科			
製図室	一	木工工場	一
暗室	一		
木材工芸科			
木工工芸科			
塗装室	一	木工建築機械工場	一
木工試験室	一		
暗室	一		
標準室	一		
器具倉庫	一		

五、教育方針

一、基本方針

- (1) 学問の研究
- (2) 工業技術の修得
- (3) 身体の強健
- (4) 徳性の涵養

二、本校教育要領

- (1) 勉学に精進し、専門教科の履修、一般教養の修得に専念し、各自の個性を尊重し、資質の向上に努めさせる。
- (2) 工業技術に習熟し、工業技術者として社会に貢献させる。
- (3) 保健体育に留意し、強健な身体を養い技術者としての使命を果させ

る。

(4) 徳性を涵養し、国家社会の有為な形成者とならせる。

昭和三十七年度教育重点目標

- 一、職員、生徒、父兄が協力して明るい学園をつくる。
- 二、不断の勉学により実力を養成させる。
- 三、勤勉で品位ある生徒とならせる。

六、生徒指導計画

一、生活指導

本校教育方針特に徳性の涵養について正しい理解と、深い愛情をもって指導助言の徹底に努め、生徒の人格完成を図る。

- 一、集会のエチケットを体得させること。
- 二、礼儀正しい品位のある人格をつくること。
- 三、服装の端正。
- 四、校内の清掃美化は生徒会の推進力によって一段の向上を計る。
- 五、生徒指導は、H・R主任が核心となり、生徒部と相携えて歩む。

二、校外指導

- 一、校内指導の延長として生徒各自の自主的校外生活を促し、他校と連絡協調の下に弾力性ある組織的活動を期する。
- 二、本校の特異性より下宿生に対する生活指導を特に入念に行なう。
- 三、遠距離通学のため校外指導の困難性より交通による家庭連絡を密にする。

七、職員数

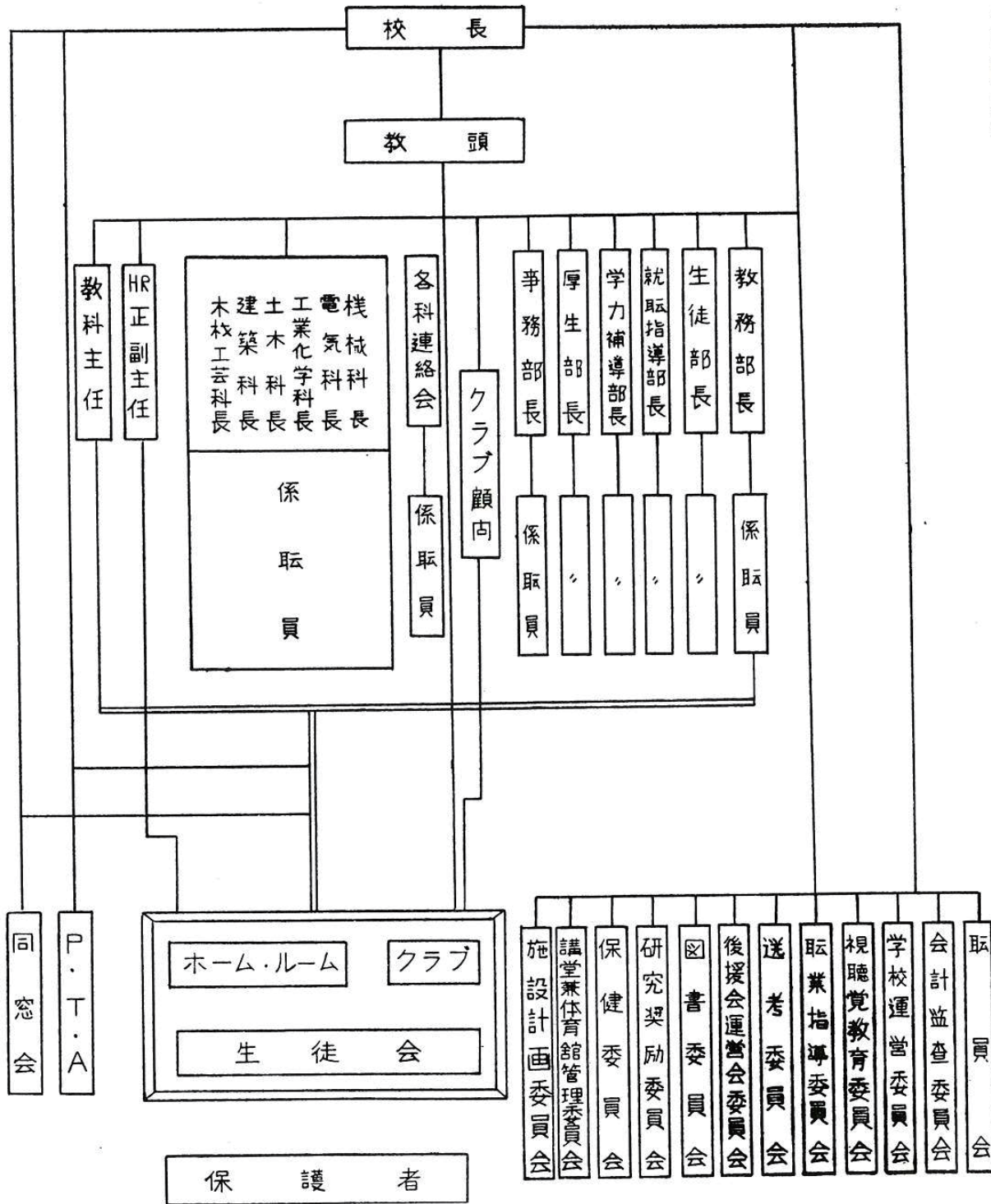
校長	一	教諭	四七	実習教諭	一三
講師	四	兼任講師	九	実習助手	六
養護教諭	一	事務職員	八		
守衛	一				

八、生徒数

(昭和三十七年五月四日現在)

計	合		三 年			二 年			一 年			A	B	機 械 科
	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計	女			
二六八	〇	二六八	四四	〇	四四	四六	〇	四六	四六	〇	四六			
			四三	〇	四三	四四	〇	四四	四五	〇	四五			
二七一	二	二六九	四五	〇	四五	四五	一	四四	四六	〇	四六			A
			四六	〇	四六	四四	〇	四四	四五	一	四四			B
一三四	一四	一二〇	四四	四	四〇	四五	六	三九	四五	四	四一			工業科
一三三	〇	一三三	四六	〇	四六	四〇	〇	四〇	四七	〇	四七			土木科
一二九	〇	一二九	三九	〇	三九	四三	〇	四三	四七	〇	四七			建築科
一一三	〇	一一三	三一	〇	三一	三五	〇	三五	四七	〇	四七			木工科
一〇四	一六	一〇三	三三八	四	三三四	三四二	七	三三五	三六八	五	三六三			計

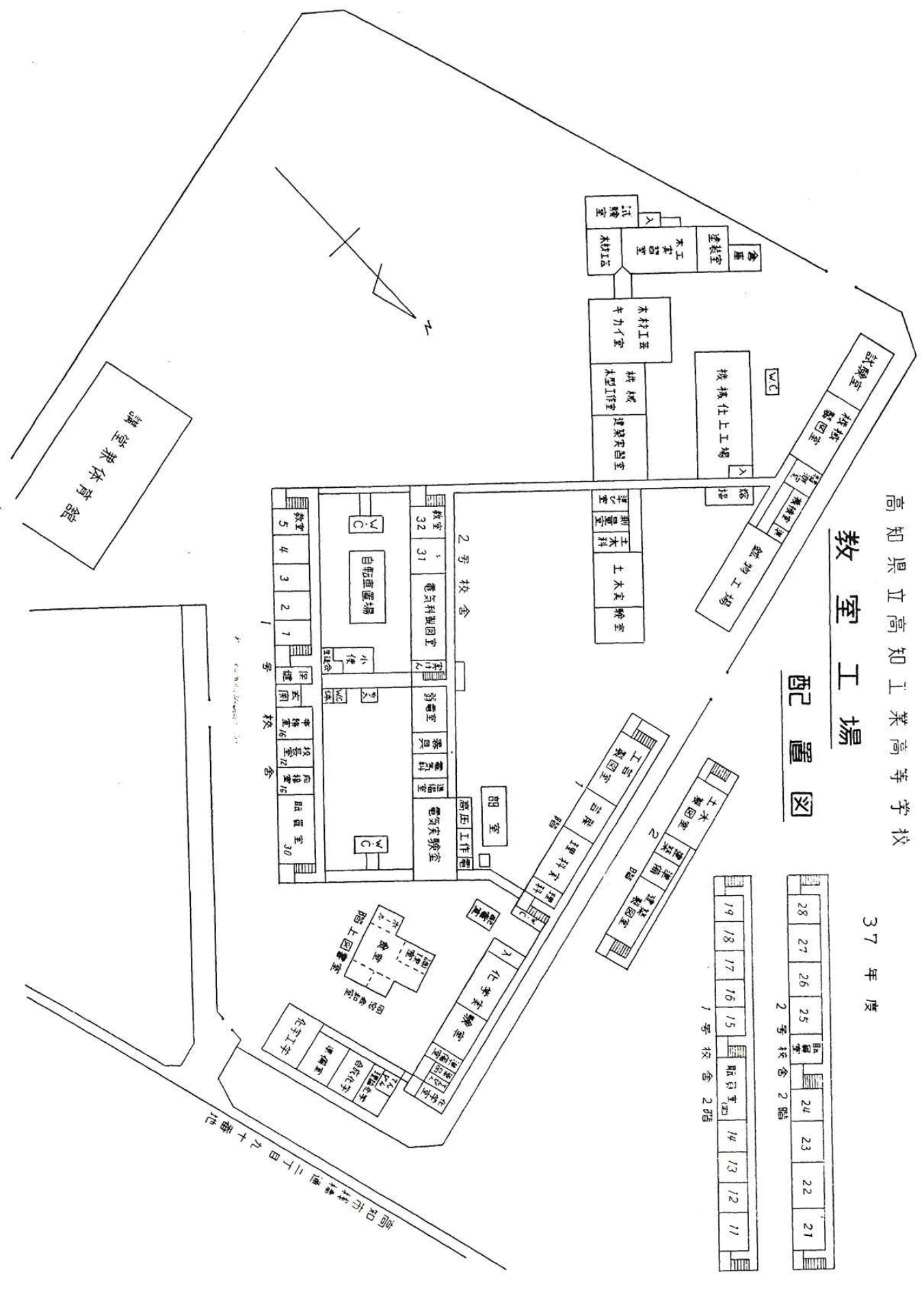
九、学校運営機構



教室工場

配置図

37年度

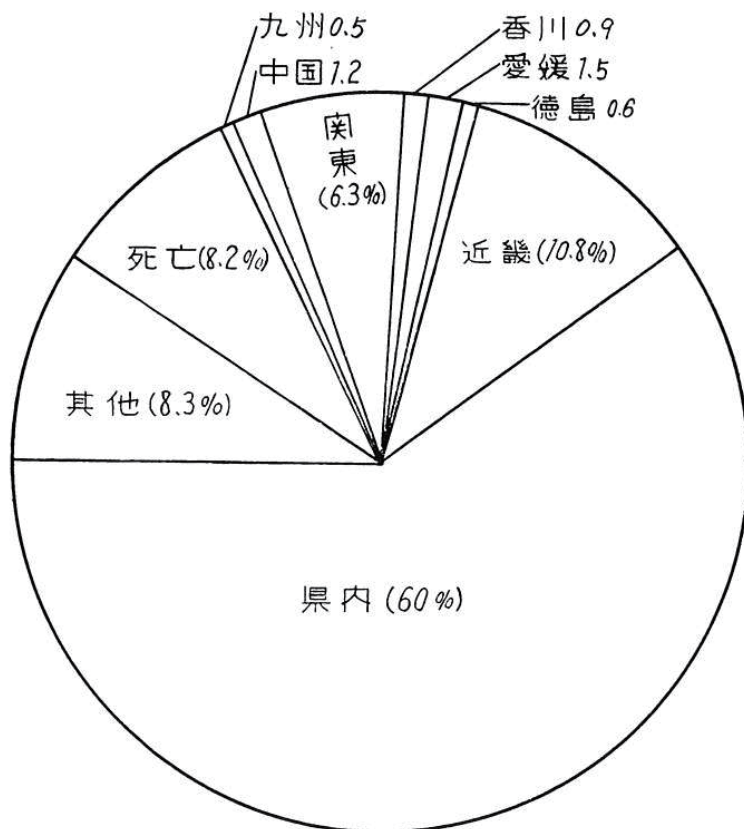


2号校舎 2階

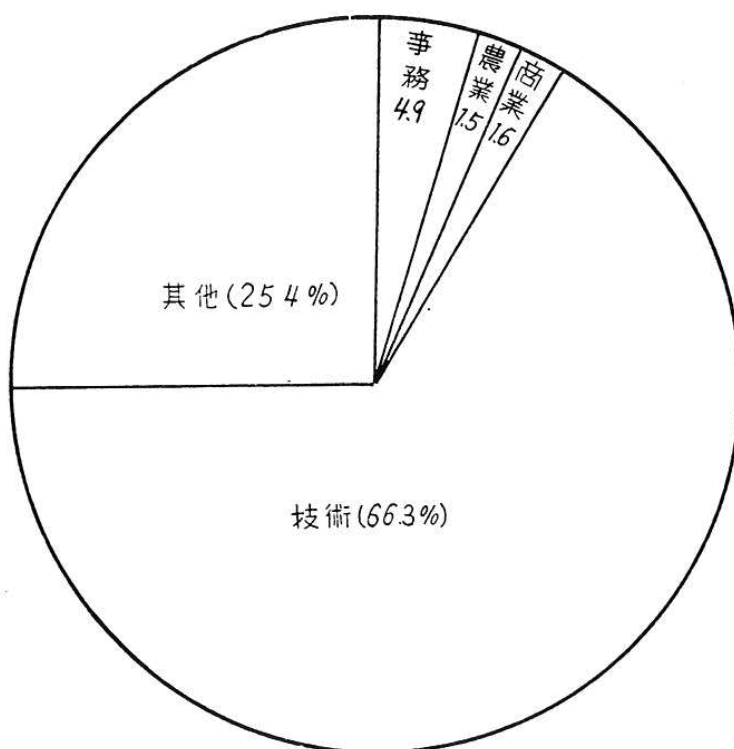
28	27	26	25	24	23	22	21
----	----	----	----	----	----	----	----

1号校舎 2階

19	18	17	16	15	14	13	12	11
----	----	----	----	----	----	----	----	----



卒業生地域別分布状況



卒業生職業別分類

定時制概況

学校運営機構

沿革

- 一、昭和二三年六月―昼間定時制として、土木、建築の二科を開設。
- 一、昭和二四年四月―機械、電気、化学の三科を増設、授業を夜間に変更。
- 一、昭和二七年三月―土木、建築科第一回卒業生を送る。
- 一、昭和三七年三月―土木、建築科第十一回、機械、電気科第十回、工業化学科第九回卒業生を送る。

設置科及び学級数

科	機械科	電気科	工業化学科	土木科	建築科	計
学級数	八	四	四	四	四	二四

教育方針

社会人としての使命を自覚し、工業日本の先達として、個性豊かで高い教養を身につけた工業技術者たらしめる。

職員数

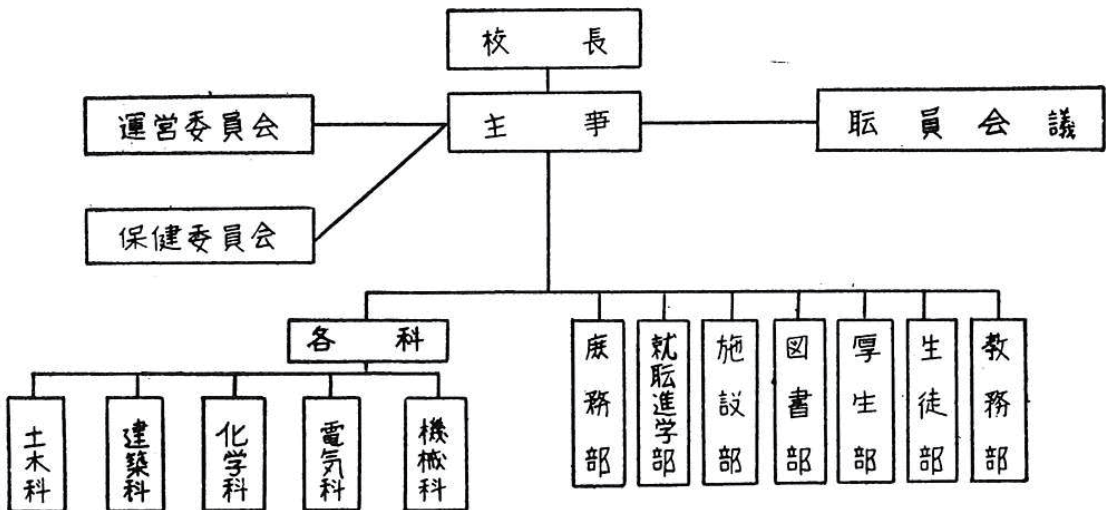
(昭和三七年四月現在)

教諭 二九名、実習教諭 二名、講師 二名、兼任講師 五名、事務職員 六名、調理従事員二名、学校雇員 五名

生徒数

(昭和三七年四月二〇日現在)

学年	機A	機B	電気	化学	土木	建築	計
一	四八	三六	四九	四六	四六	四七	二七二
二	四三	三二	四一	一五	八	三九	一七八
三	四五	三〇	三五	一七	一四	一九	一六〇
四	三六	二一	三三	一六	二二	一五	一四三
五	一七二	一一九	一五八	九四	九〇	一二〇	七五三



卒業生分布

年度別比

年度	地方都市	関東		中部		近畿			中国	四国	九州	県内	合計
		東京	其ノ他	名古屋	其ノ他	大阪	神戸	其ノ他					
27	土建	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10.	10.
28	土建	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18.	18.
29	土建	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14.	14.
30	5科	2.	0	0	0	1.	1.	0	0	0	0	67.	71.
31	5科	0	0	0	0	3.	0	0	0	0	0	63.	66.
32	5科	0	0	0	0	5	1.	0	0	0	0	87.	93.
33	5科	0	0	0	0	3.	0	0	0	0	0	76.	79.
34	5科	4.	0	0	0	5.	1.	0	0	0	0	66.	76.
35	5科	1.	0	0	0	7.	5.	0	0	0	0	83.	96.
36	5科	7.	0	3.	0	22.	3.	1.	0	0	0	82.	118.

在校生分布

(全部%) 七五三名中

%	郡
3.	安芸
9.	香美
15.	長岡
47.	高知
2.	土佐
11.	吾川
11.	高岡
2.	幡多

照明施設の概況

① 沿革

本校においては、昭和二三年、定時制発足以来久しく照明設備の貧弱に苦しんでいたが、昭和二九年九月、初めて一部に、螢光灯照明が実施されて以来年を追って改善されつつある。以下その概況を記す。

(イ) (昭和二九年度) ※普通教室(一号、五号、一〇号、二四号の各室)及弱電流実験室、電気科特別教室に、螢光灯照明が実施された。

(ロ) (昭和三一年度) ※機械工場、鑄物工場、機械科特別教室、精密測定室、木工機械工場、熔解炉 (以上機械科)

☆強電流実験室、配電室、工作室 (以上電気科)

☆定性分析室、天秤室 (以上化学科)

☆コンクリート実験室、水理実験室 (以上土木科)

☆建築科特別教室 (建築科)

以上の各室に螢光灯照明が実施された。

(ハ) (昭和三三年度) ☆土木科測量実習、体育授業用の投光器照明設備(二号三号校舎間のバレーコート、テニスコート)に二〇〇W投光器四基三〇〇W投光器四基、運動場照明用一KW投光器三基が完成した。

(ニ) (昭和三四年度) ☆運動場照明一KW五〇〇W、投光器各一基宛増設普通教室の二教室分照明増設した。

(ホ) (昭和三六年度) ☆運動場照明：五〇〇W投光器、一三基増設

校内照明：二〇〇W一。

② 照明設備の照度一覧表（昭和37年5月1日現在）

例：F-8，40W蛍光灯8灯

室・工場名		平均照度 ()内は黑板照度	照明設備	
普通教室	16坪型 1~4号 15~18号 13~14号 旧 21号	130 (10C) 250 (10C)	F-8 F-6 F-12	
	20坪型 31号, 32号, 11号, 12号, 28号		F-12	
		5, 19, 25~27号	150 (50)	F-12
	22坪型 21~24号	130 (60)	F-12	
機械工場	通	70	F-78	
	工 作 機 械	300		
機械科	鑄物別型 工教工 場室場室近	100 110 110 100 15	F-12 F-21 F-6 F-5 投光器1	
	密解 測炉 定附			
	電気科	弱電流実験室	160 100 40 100 160	F-12 F-19 F-2 F-4 F-20
	化学科	定定量 性量 分分析 室室室	110 40 110	F-14 F-4 F-3
	土木科	特別教実験室	90 110 55	I-15 I-9 F-2 I-2
建築科	特別教室	160	F-10 I-12	

給食施設と現状

一、給食の目的

夜間定時制生徒の健康を増進し、修学を奨励することを主な目的とし、併せて食生活の改善、団体生活の訓練、友愛の増進等に資するものである。

二、沿革

昭和三三年度より実施計画を立案し、諸調査を行い、食堂建設寄付金募集に着手、昭和三五年五月調理室（一五、五坪）食堂（三二坪）を完成五月中旬より「完全給食」を開始、受給者月平均一四〇〜一五〇人、昭和三六年度より脱脂粉乳が無償となり、粉乳は生徒全員を支給対象とした。昭和三七年四月より更に六五グラムのパン一個が無償となり、ミルクと合せて「学校夜食」と名付けられ、生徒全員（約七五〇人）に支給されている。

三、運営組織

職員組織中の厚生部が給食を担当している。

実施基準

(イ) 実施対象

定時制在籍生徒全員及び教職員（現在一五〇名程度給食を受けている）。

(ロ) 実施回数

時間 週六回、毎日五時〜五時三〇分、六時一五分〜六時三五分、二回に分け実施。

(ハ) 栄養内容及単価

パン、ミルク、副食物（九〇〇Cal）蛋白質三二グラム、脂肪一四グラム、VA二〇〇〇・IUVB〇七ミリグラム、VB₂〇・七ミリグラム、C二・五ミリグラム、CA〇・六グラム、JE四ミリグラム

(ニ) 学校夜食

単価一食二五円
六五グラムのパン一個と三〇グラムの粉乳のミルクを全員に支給しているパンミルク代は国県の負担なるも燃料費人件費（一〇〇日分）少なくPTAより負担。

同窓会組織

一、本部 高知県立高知工業高等学校内

会長 川久保友一(大・一五・電)

高知市西孕 宇治電化学工業株式会社

一、高知支部 (同工会)

会長 樋口 晃一(昭・八・電)

高知市仲田町八七 株式会社光電機

一、東京支部 (桂工会)

会長 森田 久雄(昭・二・機)

東京都葛飾区堀切町九五一 kk 堀切パネ製作所

一、名古屋支部

支部長 前田 治郎(大・八・電)

名古屋市中区大池町四ノ四野村ビル

大平電業名古屋営業所

一、大阪支部

支部長

安岡 一郎(昭・五・化)

大阪市大正区船町七 江戸川化学工業kk 浪速工場

一、神戸支部

会長

(くろしお会)
鈴木 貢(大・七・機)

神戸市兵庫区湊町一 カナエ商事株式会社

一、姫路支部

支部長

門田 勉(昭・一三・建)

姫路市北条口 kk 神崎組

一、徳島支部

支部長

中内 聖剛(大・七・機)

徳島県美馬郡貞光町端山

一、九州支部

支部長

井林 稔(大十・機)

小倉市赤坂二五六

卒業生数一覽表

(死亡会員を含む)

年	科	機	電	氣	化	学	土	木	建	築	工	木	機	治	2	2	2	2	技	本	計
月	科	械	氣	学	学	学	木	材	材	部	金	機	電	化	建	養	修				
大六・三	①	二二	二五	二五	①	一七					①									八	一五
大六・六	②	二五	一八	一八	②	一七					二									一	四三
大七・三	③	二五	一八	一八	③	一七					九									一	四九
大八・六	④	二三	一五	一五	④	一七					三									一	一四
大九・三	⑤	二〇	一四	一四	⑤	一五					七									一	五五
大〇・三	⑤	二〇	一四	一四	⑤	一五					七									一	五〇
計																					

大六 合 計	三七 三 三六 三 三五 三 三四 三 三三 三 三二 三 三一 三 三〇 三 二九 三 二八 三 二七 三 二六 三 二五 三 二四 三 二四 三 二三 三
二、 四 九 九	定(14) 定(13) 定(12) 定(11) 定(10) 定(9) 定(8) 定(7) 定(6) 定(5) (4) (3) (2) (1) ㉓ ㉔ (10) (9) (8) (7) (6) (5) (4) (3) (2) (1) 〇 六 三 九 五 四八 三八 二八 二八 二七 二六 一七 二六 一七 一六 八 〇 六 三 九 五 四四 八四 九七 七五 二五 四一 六三 二九 四八 一九 二 〇 七 二 七 九
二、 一 三 七	定(14) 定(13) 定(12) 定(11) 定(10) 定(9) 定(8) 定(7) 定(6) 定(5) (4) (3) (2) (1) ㉓ ㉔ (10) (9) (8) (7) (6) (5) (4) (3) (2) (1) 〇 八 二 二 四 三 三八 二七 二八 一八 一七 三七 一七 二七 二七 二七 九 八 二 二 四 三 八六 八六 七三 七六 七〇 一四 六三 〇一 六〇 〇七 六 三 六 一 五 九
一、 三 〇 九	定(14) 定(13) 定(12) 定(11) 定(10) 定(9) 定(8) 定(7) 定(6) (5) (4) (3) (2) (1) ㉓ ㉔ (9) (8) (7) (6) (5) (4) (3) (2) (1) 一 二 三 二 三 一 〇 三 一四 一四 一四 四 四 三 三 三 三 二 二 三 七 二 〇 三 四二 二〇 一二 八二 七二 六五 八六 六三 二五 八 九 六 六 一 三 七
九 三 九	定(14) 定(13) 定(12) 定(11) 定(10) 定(9) 定(8) 定(7) 定(6) 定(5) 定(4) (3) (2) (1) ㉓ ㉔ (11) (10) (9) (8) (7) (6) (5) (4) (3) (2) (1) 一 二 一 二 一 一四 一四 一四 三 一三 一三 一三 一三 四 一四 一四 二 一 二 一 五五 八二 三三 九九 五九 三四 二六 〇七 五〇 〇二 九一 六 七 九 四 七
九 六 三	定(14) 定(13) 定(12) 定(11) 定(10) 定(9) 定(8) 定(7) 定(6) 定(5) 定(4) (3) (2) (1) ㉓ ㉔ (11) (10) (9) (8) (7) (6) (5) (4) (3) (2) (1) 一 一 一 一 一 一四 二三 一四 一四 一三 一二 一三 一四 三 三 一五 三 一 一 一 二三 二七 六五 五七 八八 九八 四八 三〇 九二 八五 九三 五 二 五 九 二
三 五 四	(14) (13) (12) (11) (10) (9) (8) (6) (5) (4) (3) (2) (1) 四 二 九 三 八 三 二 三 二 一 〇 〇 三
六 八	
四 六	
一 七 八	
一 九 一	
一 九 三	
九 八	
一 二 三	一 二 五
二 五	
九、 一 二 三	一三 一三 三 三 二 二 二 二 二 二 三 三 二 三 一 二四 一〇 九 七 七 九 九 七 七 五 六 七 八 〇 〇 三二 八八 六九 六七 九八 三八 六九 一五 六九 四九 二 八 一 〇 〇

開校五十周年記念行事並に 工業図書館(同窓会館)落成式

昭和三十七年五月四日、母校開校五十周年記念式並に工業図書館落成式が
挙行された。あいにくの雨天にもかかわらず、来賓、卒業生、父兄など四百
余名のご臨席を得、これに全職員並に在校生徒千数百名、大講堂も溢れるば
かりの盛況であった。

定刻午前十時を過ぎること十分、式は校歌の斉唱に始まり、別項式次第に
従って、厳肅かつ整然ととり行なわれ、同十一時四十分五十周年記念歌斉唱
の後、意義深い式典を終了した。

一、当日の式次第

- 1、一同敬礼
- 2、開式の辞
- 3、校歌斉唱
- 4、校長式辞
- 5、同窓会長挨拶
- 6、PTA会長挨拶
- 7、感謝状並に記念品贈呈
- 8、工業図書館(同窓会館)工事報告
- 9、施工者への記念品贈呈
- 10、祝辞(祝電披露)
- 11、物故者への黙とう
- 12、五十周年記念歌斉唱
- 13、閉会の辞
- 14、一同敬礼

二、感謝状及び記念品贈呈

本校創立者であられる竹内綱、明太郎先生のご遺業をしのびたたえるため
当主竹内啓一氏をご招待申し上げたが、ご都合で臨席できず記念品は別に

お送りした。

初代校長吉崎七次郎先生のご嗣子三郎氏は、はじめ航空便で出席のご通知
があったが、急な用件で中止されたので、これまた記念品は後からお届けし
た。

二代目の校長松本政良先生のご遺族としては、ご子息四郎氏の夫人がおい
で下さったので記念品をさし上げた。

感謝状並に記念品が同窓会長より贈られた方々は、かつての校長で、現在
地であってそれぞれ活躍されている森本長太郎先生、森岡貞篤先生、小松
生幹先生。永年母校に教べんをとられ、その間同窓会の発展にたいへんご尽
力された校友小川楠水先生、勤続二十年以上の現職員、機械科加藤秀季、貞
広文太郎両先生で、以上の方々の代表として森本先生から丁寧な謝辞があっ
た。

同窓会長吉村重隆氏に対しては、学校長より感謝状と記念品が贈られた。

三、工業図書館の工事報告

図書館建設委員長(森岡前校長)より五年間にわたるご苦心を胸に秘めて
竣工までの経過を詳細に報告された。つづいて同窓会長より施工者勝賀瀬
嘉之助、(昭和二十四年建築科卒、新興土建)へ感謝状並に記念品が贈られ
た。

四、祝辞、祝電、謝辞

祝 辞

県議会議長(近藤正弥)

県教育委員会(田所大二郎)

県高等学校長協会(西村正男)

祝 電

貴校図書館落成五十年記念祝典御開催の趣亡兄は泉下喜び申す可くと存じ候
尚此の上の御発展を待望仕り候

吉 田 茂

光輝ある五十周年の式典を心からお喜び申し上げると共に今後ますますご発
展あらんことを祈ります

高知県知事 溝 淵 増 巳

御立派な同窓会館の落成に際し関係各位の御努力に感謝し御盛會をお祝い申し上げます。

参議院議員 寺尾 豊

開校五十周年の御盛典と工業図書館の竣工をお祝い申し上げます。

衆議院議員 浜田 幸雄

御盛典をお祝い申し上げます。

衆議院議員 浜田 正信

創立五十周年と図書館落成をお祝い申し上げます。

参議院議員 塩見 俊二

五十周年記念おめでたくお祝い申し上げます。

吉崎 三郎

(同窓会員の分省略)

謝 辞

本校生徒会執行委員長 川村 恭三

五、記 念 品

開校五十周年記念の手拭と絵ハガキ二組(新旧校舎、図書館、新講堂兼体育館のコロタイプ)を参列者及び職員生徒全員に進呈。

六、記 念 歌

作詩を詩人島崎曙海氏に、作曲を浜田善三郎氏に依頼して五十周年記念歌を完成。

七、その他の行事

1、「五十年の歩み」の写真展

新装なった図書館内に半世紀にわたる母校発展の跡を三十余点の写真によって偲ぶ催しで、参会者特に卒業生には多大の感銘を与えたようだ。

2、各科製図の展示

3、工業化学科展示実験

イ、ニトロベンゾール製造食塩精製実験

ロ、精溜塔によるメタノール精製実験

ハ、物理化学及び機器分析用諸実験器具の展示

4、各科対抗ロードレース

雨中にもかかわらず約一時間、熱戦がくりひろげられた。

5、記念植樹、高さ約三メートルのヒマラヤ杉が図書館前に植えられた。

6、祝賀会、簡素な準備であったが、非常に盛會で和氣あいあいのうちに解散した。

式 辞

本日ここに、高知県立高知工業高等学校開校五十周年記念式典、並に工業図書館落成式を挙行しますにあたり、高知県教育委員会を始め、来賓、御父兄、同窓会員、多数の御臨席をいただき、校長として式辞を申上げる機会を得ましたことは、私の最も光榮とするところであります。

本校は戦後の学制改革に伴い、昭和二十三年四月より高知県立高知工業高等学校と称し、機械、電気、工業化学、土木、建築の五科を全日制に、同年六月より土木、建築二科を昼間定時制として発足し、翌二十四年間高等学校再編成により、高知市立高知工業高等学校を統合し、全日制には木材工業科を加えて六科、定時制には新たに機械、電気、工業化学、を設置して、五科夜間制として、現在に至り全日定時加えて教職員百三十余名、生徒数千八〇〇余名に及ぶ、発展を遂げたのであります。その前身は高知県立工業学校、前々身は私立高知工業学校でありまして、その開校式典は明治四十五年五月四日県公会堂で挙行せられたのであります。その開校式当日から起算いたしまして、本日をもって満五十年に達したのであります。

御参列の大方の皆様は、既に御承知のことと存じますが、前々身校であります私立高知工業学校は、本県御出身の実業家であり、政治家であられました。竹内綱先生及御子息明太郎先生の、将来を見通された高邁な御識見と、郷土子弟に対する大きな愛を基調として、多額の私財を投じ設立されたものであります。爾来五十年、創立者の御精神と歴代校長、教職員各位の、高邁な識見と真摯な教育愛に基く御努力、並に各時代の生徒の、真剣な勉学意欲により極めて堅実な歩みを続け、現在卒業生は約九、〇〇〇名に達し、

それぞれ各方面において枢要な地位にあって活躍され、名譽ある伝統を形成し、高知工業高等学校の名は工業界に広く宣伝されています。

県立高知工業学校はその発展と共に、北与力町校地狹隘をつけ昭和十七年各方面の御協力御援助により、現在地約一〇、〇〇〇坪に移転着々整備充実いたしていましたが、昭和二十年不幸戦災にあい、全校舎並に、吉崎記念図書館を焼失、暫くの間皆様の御同情を得て、各地に分散授業のやむなきに至ったのであります。戦後校舎については県並に県教育委員会、PTAの御協力により、漸く復興学制改革を経て、現在に至ったのは誠に感謝に堪えない次第であります。

図書館については、五十周年に際しての同窓会記念事業として、昭和三十一年計画され爾来五カ年に亘り、母校愛に燃える同窓会員の皆様の御厚意により、本年三月竣工職員生徒一同心から感謝を捧げる次第でございます。然し乍ら、未だ施設、設備、特に設備面に於て尚不充分で充実に努力をしている次第であります。県並に教育委員会御当局の御指導、その他大方の御協力により、速からざる時期に面目を一新するものと期待いたしました。職員生徒一同それぞれの業務に真摯な努力を続けつゝあり、本校の発展は期して、まっべきものがあると信じています。

満五十年を経過して歴代教職員、同窓会員、その他の御努力により前述のように本校は名実共に確固なる基礎と、伝統を確立したのであります。私には本日の佳き日を契機として、将来の発展を期待し、一、二の希望を申し上げたいと存じます。

先づ第一に前述の施設設備の充実整備、第二に教職員一致協力により、新しい工業界の方向にこたえ得る教育効果の向上、第三に生徒諸君が青年紳士として、又中堅技術者として、それにふさわしい教養及技能と、徳性の涵養を求めて、やまないものであります。

教職員並生徒諸君の全幅の努力、と自戒自重を期待する次第であります。私は本日の記念式典を単なるお祝いとしてでなく本校将来の発展の踏みきり台として、又本校に期待される多数の方々の信頼にこたえる一里塚にいたしたいのであります。

本日この式典に御参列の皆様、又今日まで本校発展に何かと御尽力を賜りました皆様に、心から感謝の誠をさげますと共に、本校将来の発展のために、尚一層の御支援を賜ります様御願いたします。式辞といたします。

昭和三十七年五月四日

高知県立高知工業学校長 戸 梶 徳 喜

挨拶

本日ここに母校創立五十周年記念式典、並に図書館の落成式を執り行うにあたり、市御当局をはじめ多数の来賓各位の御臨席を賜り、盛大且つ有意義に挙行出来すことは、此の上もない喜びとするところであります。

顧れば、五十年前竹内綱、明太郎両先生の御英断により、私立高知工業学校が創立せられ、第一線技術者の養成を目的として、北与力町の学び舎に開校せられたのであります。その後課程の増設に伴って、校地の狹隘をつぐるに到り、現在のこの地に移転されたのであります。

この間に私立から県立に移轄せられる等の変遷はありましたが、初代吉崎校長先生が竹内両先生の意志を体し、永年に亘り工業学校独特の校風を作りあげられ、爾来歴代の校長先生はじめ、諸先生方によって、更に一層の美風涵養につとめられ、今日社会の要求する立派な第一線技術者育成の実を挙げしておりますことを思いますとき、歴代諸先生方の御努力に対する敬意と感謝の念禁じ難いものがあります。

今日、一万に垂んとする同窓生は、全国各地に雄飛活躍しておることは心強い限りであり、御同慶に堪へない所であります。

この五十年の長きに亘り、母校が我国工業界のために貢献して参りましたことは、今更ら申上ぐる迄もありませんが、最近に於ける科学の急激なる進歩に伴って、技術者の不足がさげばれ、政府当局に於ても工業教育の画期的な施策が樹立せられております今日、わが高知工業高校も更に一層の発展が期待される次第であります。

同窓会としましては、母校発展のため微力を尽しておるのであります。

この機会に御来臨の御当局、並に関係の皆様方に於かれましては、此の上乍ら御力添への程御願ひ申し上げます。

さて、今回の母校創立五十周年にあたり、吾々同窓会に於てはこの慶事を記念するため、図書館の建設を計画し、この程漸やく完成を見、本日 of 記念式にあわせて落成式を執り行うことゝなつたのでありますが、この事業計画について少し詳しく申述べさせていただきます。

創立当時の初代校長吉崎先生は前にも申上げました通り、本校の基礎を築き上げられた先生で、御退職の後まで、先生の徳を偲んで教へを受けた同窓生達は、何か記念になるものを残し度いと話合をしておつたのでありますが後進のためにも図書館が必要ではないかといふことで、吉崎記念図書館といふ名称で北与力町の旧校地内に建築することゝなり、之を完成し後進学徒の便に供したのでありますが、其の後、学校がこの地に移転する際に共に移転しましたが、戦禍にあいこれを失つたのであります。

その後、昭和三十三年の同窓会総会におきまして、来るべき創立五十周年の記念事業として、図書館再建の議が満場一致で議決せられ、爾来、同窓会全般から広く基金を募り昨秋着工の運びとなり、今回漸やく落成を見るに至つたのであります。

本計画遂行にあたり、同窓会々員各位は勿論、各種産業界の皆様にも多大の御協力を賜りましたことに対し、此の機会に深甚の謝意を表す次第であります。

今後は、内容の充実につとめ校内は勿論、一般にも公開し、本県工業界のため少しでも御役に立たせ度い所存でございます。何卒今後共御指導御協力を賜りますよう御願ひ申し上げます。

最後に本校創立以来学校のため御支援、御協力を賜りました数多くの方々に対し、心から御礼を申上げる次第であります。就中、校地移転に際し言葉に云いつくせない御世話をいただきました服部久吉、池地速水の両先輩、その他故人となられました成岡、熊沢両御所等に対し此の際改めて感謝の意を表するものであります。

尚戦災を受け校舎を失いました当時、各方面に御協力をいただき分散教授

を行ったのでありますが特に、高知県造船株式会社、には格段の御世話様になり、おかげ様で混乱の中にも教育を続けることが出来ました。茲に伴せて厚く御礼申し上げます。

以上五十年の昔に思いを走せながら蕪辞を連ねて御挨拶といたします。

昭和三十七年五月四日

高知県立高知工業高等学校同窓会長 吉村重隆

祝 辞

本日、県立高知工業高等学校創立五十周年記念式典並びに、本校図書館完成祝賀式を挙行せられるにあたり、お招きをうけ、皆様方にお目にかかる機会を得ましたことは、私の心から喜びとするところであります。

一言所感を申し述べ、祝意を表したいと存じます。

御承知のとおり、本校の歴史は遠く、かつて政治家であり又実業家であられた竹内綱父子により創設せられたのであります。明治四十五年五月設立以来、歳を重ねること実に五十年、創立者の高潔なる人格と高邁な識見とにより築かれた持異の学風は脈々として、現在に及んでいるのであります。

私は学生の訓育上最も偉大な力をもつものは此の学校の伝統より来る学風であると信ずるものであります。本校の学風こそ歴史と伝統に培われたものであります。本校の誇りであるとともに、特色を遺憾なく發揮しているものと信ずるものであります。創立以来幾多の苦難を克服し、学園自立のためにつくされた苦節に対しましては、私ども到底うかがい知ることができないものがあつたと思うのであります。その間、電気、機械、建築等特殊技術教育に重点をおかれ、他面真理と正義を愛する学園として輝かしい発展をとり、今や創設以来、社会に有用の人材を多数送り出して、日本産業の技術革新に有為の材を送りその存在を高めつゝありますことは、まことに慶祝にたえない次第であります。

本校が今日かくも盛運にありますことは、一重に歴代校長先生の卓越せる識見と手腕と、加えるに教職員はじめ校友父兄の熱心なる御協力の賜であり

その御努力に対し衷心より敬意を表するものであります。

また本日は、本校待望の図書館が、このほど完成しその祝賀式を併せ挙行せられますことは、まことに意義深いものがあると存するものでありまして重ねて深甚なる祝意を表す次第であります。

どうか今後更に、本校の輝かしい御発奮を心からお祈り申し上げまして、私の祝辞といたします。

昭和三十七年五月四日

高知県議会議長 近藤 正 弥

祝 辞

皆さん、今日はおめでとございます。本日本校創立五十周年記念式を行ないますについて、高知県知事、市長をはじめ、多数来賓の御臨席を得まして盛大なる祝典を挙げるこの出来ましたのは、まことに本校のために御同慶に存する次第であります。

思いますに、この五十年社会情勢は幾多の変遷があり、本校もまたその波濤を乗り越え、年とともに栄え、発展の一途を辿り、今日までに社会に送り出した卒業生は約九千人、その中には政界に、あるいは経済界に、その他各方面に活躍している人材は枚挙にいとまのない状態であります。

本校は、明治四十一年竹内綱先生御父子の卓見により「工業立国の信念」のもとに設立せられたものでありますが、五十年たった現在、本県の後進性を脱却するために、工業振興が唱えられていることを思えば、今さらながら先輩の識見と本校の設立の意義とに感無量なるものがあります。

本校は歴史と伝統とに輝く県下中心の工業高校でありますが、この日進月歩の宇宙時代に即応するため、さらに一層の御精進をお願いする次第であります。

こゝに創立五十周年記念式にあたり一言述べて祝辞とします。

昭和三十七年五月四日

高 知 県 教 育 委 員 会

謝 辞

百花枝を辞し、五月幟の天空にひるがえる頃、歴史と伝統に映える、我が高知工業高等学校の開校五十周年記念、並びに工業図書館落成の式典を、盛大厳粛裡に挙行されますことは、明日の工業を担う私達生徒一同にとりまして、深い感銘と感激を覚えるのであります。五十年の星霜を経て参りますと、校舎のような比較的变化の少ないものでも、流石に幾多の変遷があります。況んやその建物に出入する人においては勿論のことであります。

この様に、今にして思えば、先輩諸兄には、その頃の青空式典を想起されまして感慨深いものがあるかと存じます。

孔子も個人の生涯のうち、「五十にして天命を知る」と申されましたが、遠く半世紀の昔にあって工業立国を唱えられ、高遠雄大な企画をもって本校を創立されました、竹内綱、竹内明太郎両先生の御遺徳を偲び、遠大な抱負と卓越した経緯とをもって、その任に当られました歴代の学校長、及び幾多の教職員と一万名にんなんとする卒業生諸兄の奮闘努力により、築き上げられた美しい伝統と、確固とした校風とをもって、由緒ある学園として、全国にその名を誇る本校に学ぶことを、無上の喜びとするものであります。

五十周年の記念式典に加えまして、終戦後、設備万端ゼロに等しい苦しい環境にありまして、辛吟久しいものがありました、が、燃えるような母校愛と、魂の故郷に憧れを抱かれる先輩諸兄の非常な御努力と、県市当局の御理解、PTAの方々の絶大な愛情と御尽力、施工者の犠牲的な御芳志によりまして、こゝに待望久しい、堂々たる工業図書館の完成を見ただけであります。本日の佳き日に落成の式を併せ行いますことは、期待が大きかったですだけに生徒一同もまた一層のよろこびと感激を覚えるのであります。

新装なった図書館の閲覧室に嬉々として足を運ぶ生徒は日日その数を増し食堂のウドンの味も、また格別なものがございます。私達の日常生活にとつてこれらの施設設備がどんなに尊いものであるかは言うまでもありません。講堂その他各科実習実験室と逐次整備されて参りましたが完全な姿にはまだまだ程遠いものがございます。

創立五十周年記念歌

作詞 島崎 曙海
作曲 浜田善三郎

陰に陽に慈愛の手をさしのべて、御援助と御指導を惜しまない皆様方に對
しましても、はたまた、とどまることを知らない、工業科学界の異常なまで
の發達にとり残されることのないよう、スポーツに、勉強に、悔いのない精
進と、粉骨の努力を重ね、大志を抱いて邁進することを誓いまして謝辞とい

たします。

昭和三十七年五月四日

生徒会執行委員長

川村 恭三

一、南に黒潮 北に四国山脈
コバルト色に 澄みわたる
地もよしここに 五十年
高知工業高校の
栄えは 世紀の旗となり
みのり 豊かに 今日の日を

二、胸毛の白き 若駒は
光りにまぶれ たくましく
科学と技術を 綾に織り
同窓一万ゆるぎなく
翼をくんで 堂々と
いななけ いつも さわやかに

三、世界は進む 日に月に
長き伝統 ゆるぎなく
生かせ精神も 五体も鍛え
高知工業高校の
誉は高く 世にこたえ
輝き 光れ 永久までも

moderato con spirito ♩ = 104

みなみにくろし おきたにやま コバルト
ムナゲノシーロ キワカゴーマ ハ ヒカリニ
せかいはずす む 日につこき に なーがき

いろにす みわーたろ 地もよしこーこに五
アレタクマシク カガクトギツツにラ
で んとゆる ーぎなく いかせこーこーろもみ

じーう ね ん こーう ち こーう ぎーう こー
ヤーニ オ リ ドウソイ ナー マ シン ユ
もーき た え こーう ち こーう ぎーう こー

う こーう の はーえ はせい き の はーこーな
ル ギナ ク ツバサ ラクーン テドーフドフ
う こーう の ほまれ はたーか くよにーこーた

リト み のーリ ゆたか にきーこーうの 日 毛
ト イ ナー ナ ケイ ツモフーフー ヤカ
エ か がー ヤ き ひ か れとーわー ま で

工業図書館(同窓会館)建設資金 の募金経過並びに会計報告

建設委員会事務局 沢本 豊

昭和三二年秋の同窓会総会において「母校の開校五十周年記念事業として(工業図書館(同窓会館)を建設して母校に寄付する、工費六〇〇万円、鉄筋コンクリート二階建、延一〇〇坪……)」という議案が故中島竜吉氏(元高知市会議長)議長の下に満場一致可決されて以来、今日、竣工の喜びをみるに至るまで、つねに関係者を悩まし続けてきた問題は「果して自分達の力で六〇〇万円という大金(その後物価の値上りなどのため七〇〇万円に増額)をつくることができるだろうか……」ということでありました。爾来、理事会企画委員会、建設委員会など、数十回に及ぶ会議や会合が開かれましたが、その都度今後の募金を如何にするか……ということが議題や話題の中心にならないことはありませんでした。こうして衆智を集め、およそ「よい」と思われることはやりつくし、又採算に合うと考えられる手は打ち尽くした、と云っても過言ではないと思います。

幸いにして、同窓各位の非常な御協力と、県内の会社、工場幹部の方々の御理解ある御援助、更には吉田茂先生(同窓会顧問)や町田藤太郎氏(高知石油株式会社社長)を初めとする有志の方々の御同情ある御支援とによって別表の会計報告の通り二十余万円の余裕を以てこの大事業をなし遂げることができました。誠に感激の極みでありまして、御支援をいただいた方々に對しまして衷心より御礼を申し上げる次第でございます。

とくに各取場にあつて、会員の意志の疎通を計り、複雑な集金の事務を処理していただきました方々に對しましては、その御労苦に對し厚く御礼申し上げます。

つぎに募金の経過を大要を御報告したいと存じますが、それに先き立ち、私の事務の不手際や、不行届のため、御迷惑をお掛けしたり、御不満を覚え

られた方々に對しまして深く御詫び申し上げる次第でございます。

一、募金の基本方針

幾度かの理事会の結果「五十周年の記念事業」という事業の性質に鑑みできるだけ個人の負担額を少なくして、一人でも多くの会員に協力していただくという方針を定めました。その結果卒業回次を五回毎に区切って各区毎に個人の寄付基準額に段階を設けることにしました。各回毎に連絡可能な会員の数を調べ、その内の半数の方々に御協力願えるものと推定して、六〇〇万円を造成し得るように個人の基準額を決定しました(第一表参照)支部の負担額は、各支部所属の会員の数と個人の基準額により算出した額を各支部に連絡して了解を得て決定しました。

以上の段階までは、各支部との連絡は、文書の往復によつていたのでありますが、この大事業を完遂するには、支部の強力な援助を得なければなりませんので、更に意志の疎通を計り、協力を御願ひするため、昭和三三年二月戸梶校長、吉村同窓会長、それに私と三人で、東京、名古屋、大阪、神戸の各支部を歴訪して支部長や幹部の方々にお会いし、事業の計画や募金の方針などにつき詳細に説明申し上げ十分に意見の交換を行なつたのであります。

この旅を終えて帰高した直後、当時同工会長であつた中内先生が亡くなられるという痛恨事に見舞われました。先生についての思い出は別項中内知章先生の思い出に綴りましたが、先生は母校と同窓会の発展につき最も熱心な方のお一人でこの事業についても非常に熱意を持っておられたので、この事業のみについても大きな痛手を受けました。

二、募金経過の概要

一、同工会。地元同工会が当然この事業の主体とならなくては到底満足な成果を挙げることはできない、この考えのもとに万全の態勢をしくことになりました。

即ち、(イ)県内各地に募金担当者を設けて募金に当る。(ロ)通信、連絡には県内に張りめぐらされておる、四国電力の通信網を借用する。(ハ)県内各地区別

に会員の名簿を作成する。

協議の結果以上の三項目が決定しましたので、直ちに名簿の作成に着手しました。

会員を取場会員と一般会員に大別し、前者は五人以上の会員が在取する取場の会員を呼ぶことにし、後者は右以外の取場に勤務する会員或いは自営の方々を呼ぶことにしました。更に高知市内は取場会員と取場を業種別に分類し、高知市以外は「高知以西取場」と「高知以东取場」に分けました。一般会員については高知市内は四国電力の配電区分に従って七区に分け、郡部は郡別として、いづれも卒業の年次順に名簿をつくり上げました。

この仕事は大変な時間と根気とを要する作業でありまして、到底私どもが片手間にできることではありませんので、臨時に事務員を雇い入れて一ヶ月余の日数を費やして漸く終りました。この計画は一見立派にみえましたが、次のような理由で郡別の会員名簿は殆ど利用されませんでした。即ち非常な努力にもかかわらず名簿が完全でなかったこと。郡部の各地区に適当な募金担当者を得ることができなかったこと。高知市内よりはるばる募金に出掛けでは経費倒れになる恐れのあること、などのためであります。右のような理由で先づ取場会員と、高知市内の一般会員を固めようということになり、各取場毎に募金の世話係を一人づつお願いし、また一般会員に対しては専門の事務員をおいて会員宅をいちいち訪問して「寄付申込書」に予定額、分割払の方法などを記入していただくと共に、実際の募金も平行してすすめていくことにしました。これが昭和三三年九月上旬であります。

こうして約一年を経過した翌三四年六月末現在で、寄付の申込額、二〇七万円、募金高五五万三〇〇〇円となりました。

以後は受付けた寄付申込みによって募金に当る一方伊野、長浜方面にまで足を伸ばし、新しい分野の開拓に努力したのであります。その結果昭和三五年四月には募金高一三五万円余、三六年十月には二三三万円に達しました。

当初の目標額である二六一万円にはかなり接近しましたものの、建築費が一〇〇万円増額されておりますし、他方工事はすでに同年九月新興土建工務

所の手によって着工され、極めて順調に進捗しており、予定通り三七年三月には竣工の見込みでありましたので関係者一同日々追われるような気持ちで対策に苦慮した次第であります。

協議の結果本年（三七年）一月から二月にかけて、戸梶校長、吉村会長、森岡建設委員長（前校長三六年三月御勇退）連名の上この事業の趣旨や意義を強調するとともに窮状をうったえた手紙を印刷し、さらにその会員の卒業当時の主任の先生や、特に関係の深かった先生方にも署名していただいたものを、当時までに、協力していただいていたいなかった会員三五〇〇余名に送りました。これは同工会関係だけでなく、広く全国へ送ったのであります。これが大いに奏功して「そのうちに送ってやろう……」と思っておられた方々に契機を与えたものとみえて、続々送金せられ一挙に五〇万円余（全国で）の増加をみ一同ほっと胸を撫で下ろしました。

前記の手紙は私が原稿を作成して森岡先生に訂正を御願いしたのであります。金額とか月日とかの数字の部分を除いては殆ど原文を留めない程に加筆されておりましたが、先生の御人格よりにじみでた至誠が全文にあふれておりました。定めし先生のこの誠心が読まれた方々の心を強くゆさぶったことであろうと信じます。

又先生は三千円、五千円という可成りまとまった額の寄付に対しては一つ一つ御礼状を出しておられまして、「私どもの手紙で御寄付いただいたから全部の方々に御礼申さなくてはならないが、手が廻らなくて申し訳ない……」とひと言ひと言静かに私に述べられたことがございました。

こうして最後には第二表のように、二七七万八千円に達し、目標額に対する達成率は一〇七％となりました。

三、東京支部（桂工会）

桂工会は五〇〇余名の会員を擁してはおりますが、東京都の人口一千万中の五百名では会員の掌握は殆ど不可能で、その上「会」としての基金も、経常的な収入もないため、通信費、交通費など、殆ど会長や一部役員の方々の個人負担になっておった由であります。

このような悪条件にもかかわらず、森田久雄会長、橋田正治副会長、川島正守氏らの非常な御尽力によって多大の成果を挙げていただきました。第二表の通り目標額二五万円に対し三六万八千円で、達成率一四五％であります。

ただし桂工会の今後の活動の基金として目標額二五万円を超えた額のうちの一部は支部において保管しております。

四、名古屋支部

名古屋支部には六〇名余りの会員が所属しておりますが、この度の募金に当っては支部としてとりまとめる方法は採らず、前田治郎支部長、土居健作副支部長の御幹旋、PR、によって、個人で或いは、職場単位でまとまって直接本部へ送金する方法をとりましたが、よく御協力下さって、目標額五万円に対し、九万五千元、一九一％の達成率であります。

五、大阪支部

会員数その他の条件は東京と殆ど同じであります。松村元支部長、並川前支部長を始め安岡一郎氏（現支部長）や中野健弥氏、川島仁助氏など役員、有志の方々の非常な御尽力により、大きな成果を挙げていただきました。目標額三〇万円に対し約三十万円で達成率一〇〇％となっております。

六、神戸支部（くろしお会）

最もよくまとまっておる「会」で、支部としての会費も徴収しており、毎本部へも会費を送っていただいております。鈴木貢会長、をはじめ幹事の橋詰直英氏、吉村晴喜氏、その他役員各位の非常な御尽力によって、目標額一二万円に対し一七万円余で一三二％の達成率であります。しかもこの目標額一二万円は、姫路支部が未だ独立せず「くろしお会」に属していた当時の決定額で、その後姫路地区が「くろしお会」より独立して、別に定めた基準額によって募金していただいておりますことを考えますと、前記の達成率は一七〇％余に達するものとみられます。

七、姫路支部

当支部は「くろしお会白鷺分会」として神戸支部に属していたものが会員数の増加に伴ない、発展的に独立して、昭和三十三年十一月誕生したものであります。当時の会員数三〇名余神戸支部も諒解の上、神戸支部の目標額はそのまま十二万円に据えておいて新に当支部に二万円の目標で募金をお願いすることにしました。発足早々で種々の困難もあったことと察せられますが上田孝志前支部長や、門田勉氏（現支部長）の御尽力によって達成率一〇九％の成果を挙げていただきました。

八、徳島支部

当支部も、昭和三十三年創設されたもので、当時四国電力徳島支店に在勤された、福留善典氏（現高知支店）の非常な御努力によって同年十月四日発会式を挙げました。この支部に對しまして新に三万円の目標で募金をお願いすることになり、中ノ内聖剛支部長、前記福留氏等の御尽力によって、達成率一三三％の好成績を挙げられました。

九、高知県内会社工場関係

県内の会社、工場に對しても御寄付を御願いとすることは計画の当初より決定しておりましたが、その時期については、会員よりの募金の状況によってきめようということにしておりました。三十六年七月に至って、会員からの寄付額も三五〇万円に達しこれに校内の全日制食堂の利益金一〇〇万円を加えますと、四五〇万円に達することになりましたので「もうお願いに上っても差支えあるまい……」ということになり、県内の有力な会社、工場など一三〇余社に對し各社毎に依頼額を定め、本計画の趣意書に依頼状を添えて、八月ごろ発送しました。更に文書のみでは勿論不十分でありますので、戸梶校長、森岡建設委員長、それに私がお供して、高知市内はもとより西は伊野、東は稲生、後免、香宗まで足を伸ばし、多きは数回お邪魔して、御願いで廻ったのであります。

その結果は第3表の通りで一五〇万円近い多額に達しました。

同窓会員募金額基準並に募金方法

(第一表)

1. 個人基準額 (最低)

卒業年次	金額	卒業年次	金額	卒業年次	金額
大正6年3月	4,500円	昭和7年3月	3,000円	昭和22年3月	1,500円
" 10年3月		" 11年3月		" 26年3月	
" 11年3月	4,000	" 12年3月	2,500	" 27年3月	1,000
" 15年3月		" 16年3月		" 31年3月	
昭和2年3月	3,500	" 17年3月	2,000	" 32年3月	500
" 6月3月		" 21年3月		以 降	

2. 支部目標額 (最低)

東京	25万円	名古屋	5万円	大阪	30万円
神戸	12万円	高知	261万円	姫路	2万円
徳島	3万円	その他	32万円	(計)	370万円

3. 募金方法

- (1) 各支部は所属会員の募金を取纏め本部に納金して下さい。
- (2) 支部の組織をもたない地域の方々は直接本部に納金して下さい。
- (3) 送金には添付振替用紙を御使用下さい。
- (4) 昭和三十五年末を以て募金完了の目標と致します。
- (5) 分割して御送金下さる方は毎年少く共一回は御送金願います。
- (6) 毎年一回会報を発行して募金の状況及び各人別募金額を報告致します。

4. 本部所在地 高知市棧橋通二丁目 高知県立高知工業高等学校同窓会
電 ② 9171 (口座番号大阪76225番)

御理解ある、御援助に對しまして、厚く御礼申し上げる次第でございます。特に敷島紡績株式会社高知工場では「本社へ稟申する必要があるから」と詳しく知りたい……と申されて、私どもが出向く前に、酒井三四郎氏(労務課長)がわざわざ御来校され恐縮したことであります。

(第2表)

支 部 募 金 状 況 377.6

支部名	予定額	本部受付金	達成率	人数	記 事
東京	250,000	363,300	145	147	支部扱 個人送金 180,000 183,300
名古屋	50,000	95,500	191	47	耘場又は個人送金
大阪	300,000	298,800	100	173	支部扱 160,000 大阪ガス 30,100 個人送金 108,700
神戸	120,000	171,500	143	104	支部扱 129,500 個人送金 42,000
姫路	20,000	21,700	109	29	支部扱 16,000 個人送金 5,700
徳島	30,000	39,800	133	46	支部扱 37,800 個人送金 2,000
高知	2,610,000	2,778,715	107	1,749	
その他	320,000	477,250	133	287	
合計	3,700,000	4,246,565	115	2,582	

以上で経過報告の概要を終りますが、最後に御援助、御協力いただきました方に対して重ねて厚く御礼申し上げます。

(第3表) 高知県内・会社・工場・事業場・御寄付額一覧表(順序不同)

敬称略 総額 1,494,000円 (37.7.6現在)

名 称	金 額	名 称	金 額
高知石油 ツバメプロパン株式会社	10,000	土佐石灰株式会社	30,000
KK長崎鉄工所	20,000	大阪窯業セメント高知工場	20,000
KKいすゞ自動車	20,000	KK関頼次商店	20,000
土佐電気鉄道株式会社	20,000	日本特紙株式会社	50,000
株式会社 轟 組	20,000	株式会社 三 谷 組	20,000
四国電力株式会社	200,000	宮地電気株式会社	20,000
有限会社 高知桂商会	30,000	株式会社ミロク製作所	70,000
山崎内燃機研究所	30,000	株式会社 大西時計店	20,000
高知マツダ販売KK	10,000	株式会社 特殊製鋼所	10,000
日本紙業KK高知工場	50,000	土佐紙株式会社	20,000
高知県建設業協会	10,000	大都工業株式会社	20,000
土 佐 ッ 子	20,000	土佐酸素株式会社	10,000
永吉リビング装備KK	6,000	土佐内燃機株式会社	20,000
南海電気工事株式会社	50,000	四国ガス株式会社	20,000
株式会社 河 野 組	10,000	株式会社百足屋足袋	3,000
南国パルプ工業株式会社	10,000	高知県交通株式会社	20,000
株式会社 大 林 組	30,000	合資会社 島内書店	5,000
高 知 新 聞 社	3,000	株式会社藤本建設	10,000
日本セメント株式会社	20,000	柳生建設株式会社	20,000
入交産業株式会社	10,000	不二電気工芸株式会社	10,000
宇治電化学工業株式会社	20,000	近 森 膳 写 堂	1,000
土佐電気製鋼所	10,000	協和農機株式会社	100,000
神戸製鋼所高知工場	10,000	敷島紡績KK高知工場	30,000
東洋電化工業株式会社	20,000	四 国 銀 行	20,000
株式会社 光 電 気	20,000	株式会社鈴江農機	100,000
株式会社野本木工所	5,000	有限会社福井商会	1,000
南海化学工業株式会社	10,000	植野タイル株式会社	10,000
四国日産自動車株式会社	10,000	淀川製鋼所株式会社	30,000
有限会社新興土工務所	70,000	株式会社 間 組	30,000

同窓会館建設資金会計報告 37.7.6現在(監査済)

区 分	金 額	記 事
収 入 の 部	会 員 寄 付 金	4,246,565円 内訳別表の通り
	母校全日制食堂利益金	1,000,000
	会社、工場よりの寄付金	1,494,000 四国電力20万円 他57社より
	特 志 家 寄 付 金	153,300 吉田茂先生(本会顧問)10万円外
	同窓同工会積立金	400,000
	預 金 利 子	232,246
合 計	7,526,111	
支 出 の 部	設 計 料 そ の 他	106,150 設計料100,000 申請料3,000 図面焼付料3,150
	工 事 費	7,090,000 建築費7,000,000 整地費78,000 其ノ他12,000
	募 金 に 伴 う 諸 経 費	101,476 消耗品・印刷費9,065 通信費・振替送料30,362 集金手当49,509 交通費・会議費12,540
	合 計	7,297,626
差 引 現 在 高	228,485円	